

Fujitsu Network Si-R Si-R Gシリーズ

Si-R G200 ご利用にあたって

はじめに

このたびは、本装置をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
インターネットやLANをさらに活用するために、本装置をご利用ください。

2011年 3月初版
2012年 3月第2版
2012年 8月第3版
2013年 1月第4版
2013年 3月第5版
2014年 11月第6版
2023年 5月第7版

本ドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。
従って本ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。
Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
Copyright Fujitsu Limited 2011 - 2023

目次

はじめに	2
本書の構成と使いかた	5
本書の取り扱いについて	5
本書の読者と前提知識	5
本書の構成	5
本書における商標の表記について	6
本装置のマニュアルの構成	7
安全上のご注意	8
警告表示について	8
メンテナンスに関するご注意	11
使用上のご注意	11
ツイストペアケーブルの除電について	11
セキュリティの確保について	12
清掃について	12
電波障害自主規制について	12
高調波電流規格について	12
ハイセイフティについて	12
事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについて	12
ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意	13
スーパーグリーン製品について	13
ネットワークの機器管理・監視	13
お取り扱い上の注意事項	14
第 1 章 お使いになる前に.....	15
1.1 梱包内容／各部の名称と働き	16
1.1.1 梱包内容	16
1.1.2 本装置 カードスロット面	17
1.1.3 本装置 インタフェース面	19
1.1.4 本装置 側面	22
1.1.5 本装置 上面	23
1.1.6 本装置 底面	24
1.2 ケーブル抜け防止金具の取り付け／取り外し方法	25
第 2 章 機器の設置	26
2.1 設置環境を確認する	27
2.1.1 設置条件を確認する	27
2.1.2 設置（保守）スペースを確認する	29
2.2 本装置を設置する（ラック搭載時）	31
2.2.1 ラックに搭載する	32
2.3 ExpressCard を取り付ける	34
2.3.1 ExpressCard を取り付ける	34
2.3.2 ExpressCard を取り出す	35
2.3.3 盗難防止機構を取り付ける	36
2.4 USB 通信モジュールを使う	38
2.4.1 USB 通信モジュールを取り付ける	38
2.4.2 USB 通信モジュールを交換する（取り外す）	39

2.5	設定用パソコンを接続する	40
2.5.1	LANで接続する	40
2.5.2	コンソールポートに接続する	47
2.6	電源を投入／切断する	50
2.6.1	電源ケーブルを接続する	50
2.6.2	電源を投入／切断する	51
2.7	時刻を設定する	52
2.8	Si-R 効率化運用ツールで導入作業を行う	53
2.8.1	設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面	55
2.9	USB メモリを使う	58
2.9.1	USB メモリを取り付ける	58
2.9.2	USB メモリを交換する（取り外す）	59
2.10	外部メディアスタート機能を設定する	60
2.11	ランプを ECO モードにする	61
第 3 章	ソフトウェアのインストールと初期化	62
3.1	FTP サーバ機能によるソフトウェアの退避	63
3.2	ソフトウェアを更新（インストール）する	64
3.2.1	FTP によるソフトウェア更新	64
3.2.2	USB メモリからのソフトウェア更新	66
3.3	FTP サーバ機能によるデータ通信モジュールファイルの退避	69
3.4	データ通信モジュールファイルを更新（インストール）する	70
3.4.1	FTP によるデータ通信モジュールファイル更新	70
3.5	ソフトウェア更新に失敗したときには（バックアップファーム機能）	73
3.5.1	パソコン（FTP クライアント）を準備する	73
3.5.2	本装置を準備する	73
3.5.3	ソフトウェアを更新する	74
3.6	ご購入時の状態に戻すには	75
3.6.1	LAN で接続する	75
3.6.2	コンソールポートに接続する	77
3.6.3	SELECT ボタン／ ENTER ボタンを使用する	79
索引		80

本書の構成と使いかた

本書では、本装置をお使いになる前に知っておいていただきたいことを説明しています。

本書の取り扱いについて

本取扱説明書には、本装置を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。

本装置を使用する前に本書を熟読してください。特に本書に記載されている「安全上のご注意」をよく読み、理解されたうえで本装置を使用してください。また、本書は本装置の使用時、いつでも参照できるように大切に保管してください。

お客様の生命、身体、財産に被害をおよぼすことなく弊社製品を安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本装置を使用する際には、本書の説明に従ってください。

本書の読者と前提知識

本書は、ネットワーク管理を行っている方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

ネットワーク設定を初めて行う方でも「機能説明書」に分かりやすく記載していますので、安心してお読みいただけます。


本書の構成

以下に、本書の構成と各章の内容を示します。


章タイトル	内容
第1章 お使いになる前に	この章では、本装置の梱包内容および各部の名称と働きについて説明します。
第2章 機器の設置	この章では、本装置の設置、設定用パソコンの接続およびSi-R効率化運用ツールの導入方法について説明します。
第3章 ソフトウェアのインストールと初期化	この章では、ソフトウェアをインストールする手順や設定内容の初期化について説明します。


マークについて


本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。


 **ヒント** 本装置をお使いになる際に、役に立つ知識をコラム形式で説明しています。


こんな事に気をつけて 本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。

 **補足** 操作手順で説明しているもののほかに、補足情報を説明しています。

 **参照** 操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。

 **適用機種** 本装置の機能を使用する際に、対象となる機種名を示します。

 **警告** 製造物責任法（PL）関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

 **注意** 製造物責任法（PL）関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Server および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

製品名の略称について

本書で使用している製品名は、以下のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows® XP Professional operating system	Windows XP
Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system	
Microsoft® Windows® 2000 Server Network operating system	Windows 2000
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	
Microsoft® Windows NT® Server network operating system Version 4.0	Windows NT 4.0
Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition	Windows Server 2003
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Web Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based systems	
Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter x64 Edition	
Microsoft® Windows Vista® Ultimate operating system	Windows Vista
Microsoft® Windows Vista® Business operating system	
Microsoft® Windows Vista® Home Premium operating system	
Microsoft® Windows Vista® Home Basic operating system	
Microsoft® Windows Vista® Enterprise operating system	
Microsoft® Windows® 7 64bit Home Premium	Windows 7
Microsoft® Windows® 7 32bit Professional	

本装置のマニュアルの構成



本装置の取扱説明書は、以下のとおり構成されています。使用する目的に応じて、お使いください。

マニュアル名称	内容
Si-R 効率化運用ツール使用手引書	Si-R 効率化運用ツールを使用する方法を説明しています。
Si-R G100 ご利用にあたって	Si-R G100 の設置方法やソフトウェアのインストール方法を説明しています。
Si-R G200 ご利用にあたって (本書)	Si-R G200 の設置方法やソフトウェアのインストール方法を説明しています。
機能説明書	本装置の便利な機能について説明しています。
トラブルシューティング	トラブルが起きたときの原因と対処方法を説明しています。
メッセージ集	システムログ情報などのメッセージの詳細な情報を説明しています。
仕様一覧	本装置のハード/ソフトウェア仕様と MIB/Trap 一覧を説明しています。
コマンドユーザーズガイド	コマンドを使用して、時刻などの基本的な設定またはメンテナンスについて説明しています。
コマンド設定事例集	コマンドを使用した、基本的な接続形態または機能の活用方法を説明しています。
コマンドリファレンス-構成定義編-	構成定義コマンドの項目やパラメタの詳細な情報を説明しています。
コマンドリファレンス-運用管理編-	運用管理コマンド、その他のコマンドの項目やパラメタの詳細な情報を説明しています。
Web ユーザーズガイド	Web 画面を使用して、基本的な操作やメンテナンスについて説明しています。また、Web 画面の項目の詳細な情報を説明しています。




安全上のご注意

警告表示について

本装置を安全にご使用いただき、人身や財産への危害を未然に防ぐために守っていただきたい事項を示しています。以下の表示と記号の意味、内容をよくご理解のうえ、本書をお読みください。

-  **警告** 正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。
-  **注意** 正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

危害や損害の内容を示すために、以下の記号を使用しています。

記号	記号の意味
	△ で表示された記号は、警告や注意事項を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	○ で表示された記号は、してはいけない禁止行為を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	● で表示された記号は、必ず従っていただく行為の強制、指示を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。



警告

本装置を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。





警告事項			
<p>分解禁止</p>	<p>本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。 感電・火災・故障の原因となります。</p>	<p>アース線接続</p>	<p>必ずアース接続してください。 アース接続しないで使用すると、感電のおそれがあります。 アース接続は、必ず電源プラグをコンセントに接続する前に行ってください。 アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。</p>
<p>禁止</p>	<p>電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルの上に物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、電源ケーブルを傷めないでください。 電源ケーブルを束ねた状態で使用しないでください。感電や火災のおそれがあります。 その他のケーブル類も同様です。</p>	<p>禁止</p>	<p>表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。 また、タコ足配線をしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>
<p>ぬれ手禁止</p>	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。</p>	<p>禁止</p>	<p>電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。</p>
<p>接触禁止</p>	<p>近くで雷が発生したときは、本装置、電源ケーブルおよびその他のケーブルに触れないでください。 感電の原因となります。</p>	<p>プラグを抜く</p>	<p>万一、発熱、発煙、異臭がするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止してください。 すぐに電源ケーブルのプラグをコンセントから抜き、煙などの異常が出なくなるのを確認し、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。</p>
<p>異物禁止</p>	<p>本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。 また、水などの液体を入れないでください。 万一、異物や液体が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災・故障の原因となります。</p>	<p>プラグを抜く</p>	<p>インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。 感電・故障の原因となります。</p>
<p>感電注意</p>	<p>サービスマン以外は、カバーを開けないでください。 また、保守時には、必ず電源ケーブルを抜いてください。 感電のおそれがあります。</p>	<p>注意</p>	<p>梱包に使用しているビニール袋は、お子さまが口に入れたり、かぶって遊んだりしないようにしてください。 窒息の原因となります。</p>
<p>注意</p>	<p>取り外したネジなどは、小さなお子さまが誤って飲み込むことがないように、小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。 万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。</p>	<p>禁止</p>	<p>清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。 火災・故障の原因となります。</p>



注意

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

注意事項	
<p>電源が入っている状態で本装置に長時間（1分以上）触れないでください。低温火傷の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>本装置は、縦置きにしないでください。横置きは2段まで積み重ねることができます。3段以上または本装置以外は積み重ねないでください。落下による負傷・破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>
<p>本装置の上に物を置いたり、本装置の上で作業したりしないでください。本装置が破損・故障したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>本装置をぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しないでください。また、強い衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。落下による怪我・破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>
<p>本装置は、屋内に設置してください。屋外に設置すると故障の原因となります。</p>	<p>国内でだけ使用してください。本装置は、国内仕様になっていますので、海外では使用できません。</p>
<p>極端な高温または低温状態や温度変化の激しい場所で使用しないでください。故障の原因となります。本装置の使用温度範囲を守ってください。</p> <p>禁止</p>	<p>本装置を薬品の噴霧気中や薬品の触れる場所など腐食性ガス発生環境下では使用しないでください。破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>
<p>電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>本装置の通気孔の確保およびケーブル処理に必要な空間をとってください。本装置を並べて使用する場合でも、それぞれに必要なサービスエリアを設けてください。ケーブルの障害や故障の原因となります。</p>
<p>本装置を移動するときは、必ず電源ケーブルを抜いてください。故障の原因となります。</p>	<p>配線工事は、正しく行ってください。正しい配線工事を行わないと正常な通信が行えないだけでなく、本装置の故障にもつながります。</p>
<p>直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所には置かないでください。感電や火災のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>本装置内部が高温になるため、通気孔をふさがないでください。火災のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>
<p>電源ケーブルは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。</p>	<p>電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。</p>
<p>電源プラグの金属部分およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。</p>	<p>使用中の本装置を布で覆ったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>
<p>ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。</p> <p>禁止</p>	<p>ラック搭載機構をラックに搭載した場合、ラック搭載機構の金具がラック裏面側支柱からはみ出します。ラックの背面で作業する際は、はみ出している金具に注意してください。負傷するおそれがあります。</p> <p>注意</p>
<p>ExpressCardの使用終了直後は、ExpressCardが高温になっていることがあります。ExpressCardを取り外すときは、使用後しばらく待ってから取り外してください。火傷の原因となることがあります。</p>	<p>装置への結露は破損・故障の原因となりますので結露を防止してください。</p> <p>注意</p>
<p>外気が直接流入する場所に装置を設置すると粉塵等の影響により破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>噴霧式加湿器が噴霧する水滴中の不純物が乾燥すると白粉となって、機器内部に付着するため、不純物の含まれない水を使用してください。破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>

注意事項	
 禁止	潮風に含まれる塩分は絶縁不良や部材の腐食劣化の原因となるため、製品は海岸から離れた場所に設置を行ってください。 破損・故障の原因となります。
 注意	粉末消火剤や泡消火材は、機器や媒体を汚損するリスクがあるため、使用する消火剤は、機器影響の少ない消火剤等の使用を推奨いたします。
 注意	浸水、雨漏り、給水配管の漏れ等がない場所に設置してください。
 注意	鼠の侵入による信号ケーブルや電源ケーブルのかじりによる誤動作、断線、漏電、絶縁不良を防止するため、侵入するような隙間や穴を塞いでください。

メンテナンスに関するご注意

- 決してご自身では修理を行わないでください。故障の際は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。
- 本装置をご自身で分解したり改造したりしないでください。本装置の内部には、高電圧の部分および高温の部分があり危険です。

使用上のご注意

- 本製品を安定した状態でご使用になれる期間は、動作保証範囲内の温度で5年が目安です。
- 本製品として提供される取扱説明書、装置本体およびソフトウェアは、お客様の責任においてご使用ください。
- 本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲はいかなる場合も、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- 本製品にて提供されるソフトウェアおよび本製品用として弊社より提供される更新用ソフトウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用する、また、改変や分解を行うことは一切許可しておりません。
- コンソールポートには、指定のコンソールケーブル以外は接続しないでください。コネクタ形状（RJ-45、8ピンモジュラーコネクタ）が同じISDNやLANなどの異なったインタフェースケーブルを誤接続すると故障の原因となります。

ツイストペアケーブルの除電について

ツイストペアケーブルは、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイストペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポートが誤動作したり、壊れたりすることがあります。

機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。


また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

セキュリティの確保について

パスワードを設定しない場合、ネットワーク上のだれからでも本装置の設定を行うことができます。セキュリティの面からは非常に危険なため、パスワードは必ず設定してください。また、設定したパスワードは定期的に変更するようにしてください。

コマンドラインインターフェースまたは Web ブラウザを操作して、本装置の設定・運用を行う設定用パソコンは、本装置にアクセスができるネットワーク上のどこに配置してもご利用いただけますが、セキュリティの面から外部からのアクセスができない運用管理専用敷設されたネットワーク上に配置してください。

このような運用管理専用ネットワークがない場合は、本装置にアクセスできるパソコンを制限するなどのセキュリティ対策を行ってください。

 参照 マニュアル「コマンドユーザーズガイド」
マニュアル「コマンド設定事例集」

清掃について

本装置を清掃する場合、布に水（または水で薄めた中性洗剤）を含ませ、固く絞ってからふいてください。

ふき取りのときに、本装置のスイッチ類やすきまなどに、水が入らないように十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的にしていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

ハイセイフティについて

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについて

法人のお客様から排出される弊社製品は「事業系 IT 製品リサイクルサービス」（有料）にて回収、リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでいます。

本製品の廃棄については、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/maintenance/lcm/service-phase4/recycle/>

ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意



警告

本装置をラックへ搭載する場合は、使用温度環境の管理、物理的安定性の確保、漏えい電流に対する注意が必要です。本装置のラックへの搭載は、これらの知識を有した技術者が行ってください。感電、火災などの原因となります。

- 本装置の動作保証温度、湿度を超えないように、ラック内外の温度と湿度を管理してください。
- 本装置は、側面およびインタフェース面で吸排気の構造となっております。吸気面および排気面をふさがないように設置してください。
- 搭載するラックの最大積載量を考慮して搭載してください。
- 設置場所の電源供給能力を確認して設置してください。
- 本装置の電源ケーブルをテーブルタップに接続する場合、テーブルタップの接地線を通して大漏えい電流が流れることがあります。電源接続の前に、必ず接地接続を行ってください。電源ケーブルが分電盤に直接接続されない場合、工業用プラグを持ったテーブルタップを使用してください（本装置の漏えい電流は最大0.42mAです）。

スーパーグリーン製品について

本製品は、消費電力を従来製品と比べて29%削減した、弊社の定めるスーパーグリーン製品として認定された製品です。



- 主な特長
 - 小型／省資源化
 - 再資源化率が高い
 - 従来製品と比べて低消費電力

富士通の環境についての取り組みの詳細は、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/>

ネットワークの機器管理・監視

本製品のネットワーク機器監視／管理を行う場合は、機器の構成情報把握・インタフェース状態検出・障害管理・統計（性能／障害）管理・Trap/Syslog管理が行える、Systemwalker Network Assistがご使用いただけます。

本機器の機器ビューを含む詳細監視を、任意端末からWeb監視・管理ができます。

なお、Systemwalker Network Assistの詳細につきましては、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/products/software/middleware/business-middleware/systemwalker/products/net-assist/>

お取り扱い上の注意事項

本装置を取り扱う際に、以下の点に注意してください。

- 本装置の構成定義情報は、設定完了後にお客様自身で管理・保管してください。
万一、故障発生時に弊社で復旧作業を行う場合は、弊社技術員がお客様で管理・保管していただいている構成定義情報を使用させていただきます。
この構成定義情報をお客様からご提供いただけない場合は、復旧までに長時間かかる場合があります。
構成定義情報は、適宜バックアップを取り、最新状態のものを管理・保管してください。
- 本装置は、雷や静電気などに対する保護回路を内蔵しています。そのため、雷や静電気などが装置内に入ると、一部機能が使用できなくなることがあります。
この場合、装置の電源を再投入することで正常な状態に復旧します。なお、電源を再投入しても一部機能が使用できない、または、電源が入らない場合は、「保護回路で保護しきれない状態となり装置が破壊された」と考えられます。このような場合は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員にご確認ください。
- ソフトウェアの更新中は、絶対に電源の切断またはリセットを行わないでください。更新中に電源を切断またはリセットした場合は、装置が起動しなくなります。

第1章 お使いになる前に



この章では、本装置の梱包内容および各部の名称と働きについて説明します。

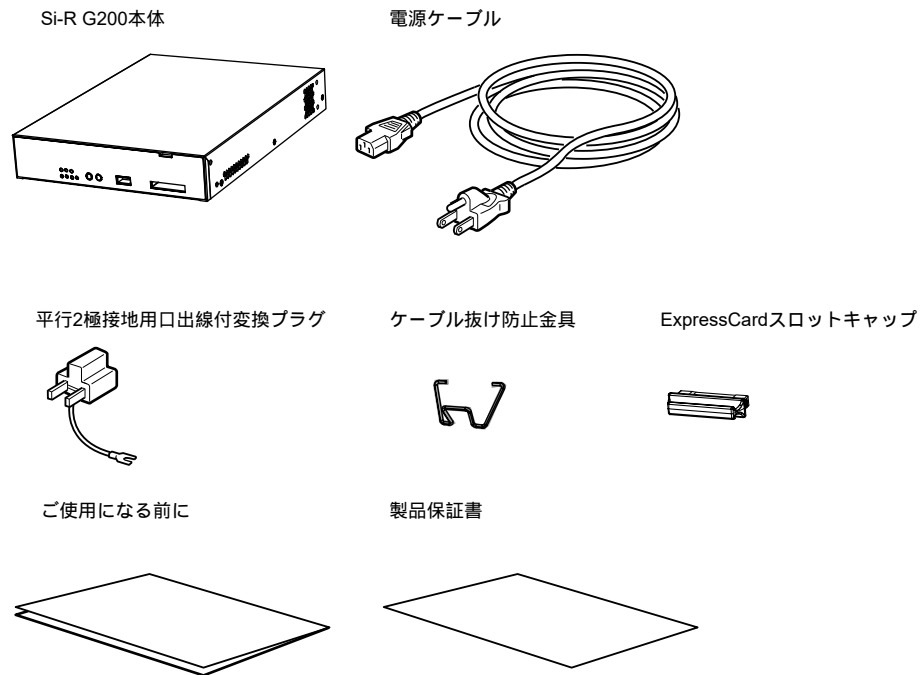
1.1	梱包内容／各部の名称と働き.....	16
1.1.1	梱包内容.....	16
1.1.2	本装置 カードスロット面.....	17
1.1.3	本装置 インタフェース面.....	19
1.1.4	本装置 側面.....	22
1.1.5	本装置 上面.....	23
1.1.6	本装置 底面.....	24
1.2	ケーブル抜け防止金具の取り付け／取り外し方法.....	25

1.1 梱包内容／各部の名称と働き

本装置をお使いになる前に、梱包内容を確認してください。

1.1.1 梱包内容

本製品には、それぞれ以下のものが同梱されています。すべてそろっていることを確認してください。

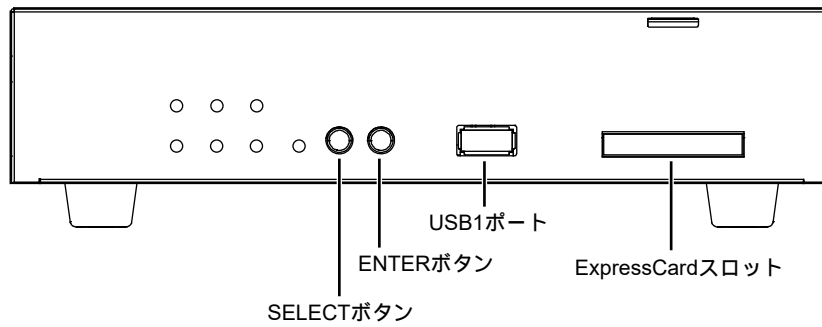


- **Si-R G200 本体** 本装置のことです。
- **電源ケーブル** 本装置とコンセントをつなぐケーブルです。
- **平行2極接地用口出線付変換プラグ** 本装置の3ピンの電源ケーブルを2穴のコンセントに差し込むためのアダプターです。工場出荷時は電源ケーブルに取り付けられています。端子にカバーが付いています。ご使用の際はカバーを外してください。
- **ケーブル抜け防止金具** 電源ケーブルを本装置に固定するための金具です。
 参考 [1.2 ケーブル抜け防止金具の取り付け／取り外し方法] (P.25)
- **ExpressCard スロットキャップ** ExpressCard スロット未使用時の、ほこり侵入防止キャップです。ご購入時は、ExpressCard スロットに取り付けてあります。
- **ご使用になる前に** ソフトウェアのインストール方法、梱包内容、使用許諾の契約内容などについて記載されています。
- **製品保証書**



本製品には、コンソールケーブルは同梱されていません。ケーブルについては、以下の富士通ホームページをご覧ください。
 URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable3/>

1.1.2 本装置 カードスロット面



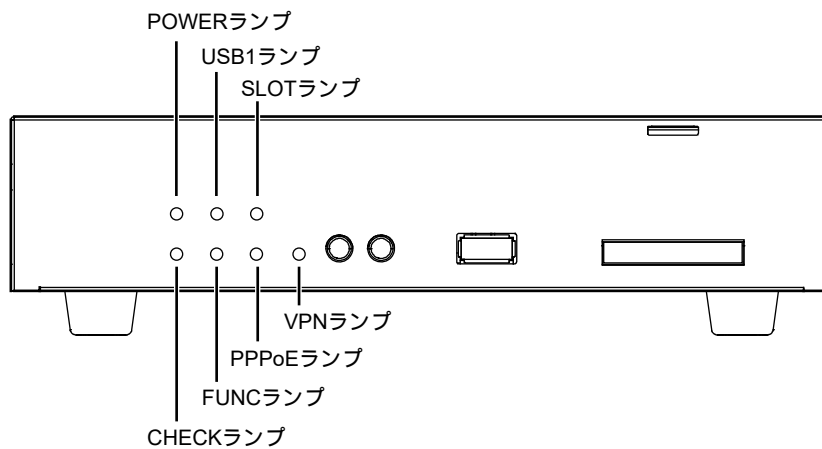
- SELECT ボタン 機能を選択するボタンです。
- ENTER ボタン SELECT ボタンで選択した機能を確定するボタンです。
- USB1 ポート USB 通信モジュールを接続します。
無線通信用のUSB 通信モジュールで通信を行うときに使用します。

こんな事に気をつけて

USB1 ポートではUSB 通信モジュールの使用を推奨します。USB2 ポートではUSB メモリの使用を推奨します。

- ExpressCard スロット 本装置に ExpressCard を接続するときに使用します。

ランプの詳細



- POWER ランプ 電源の状態を表示します。
- USB1 ランプ USB1 ポートの状態を表示します。
- SLOT ランプ ExpressCard スロットの状態を表示します。
- CHECK ランプ 異常な動作時は、橙色で点灯します。弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。

こんな事に気をつけて

CHECK ランプが緑色で点滅しているとき、電源の切断およびリセットを行わないでください。構成定義が破壊される場合があります。

- FUNC ランプ 未使用のため表示しません。
- PPPoE ランプ PPPoE 接続の通信状態を表示します。

- VPNランプ 自動鍵交換で送受信のIPsec-SAが存在するかどうかを表示します。

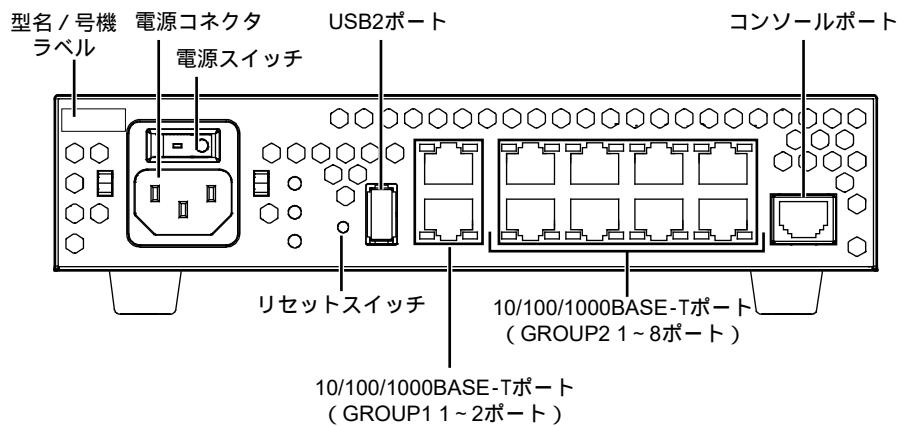
各ランプの表示内容

ランプ名	表示	状態
POWER	緑色で点灯	電源が投入され、装置が起動したことを示します。
	緑色で点滅	電源が投入され、装置が診断中であることを示します。
	消灯	電源が未投入であることを示します。
USB1	緑色で点灯	USB1ポートにUSBデバイスが接続され、正常な動作をしている状態を示します。
	緑色で点滅	USBメモリを接続している場合は、リード/ライドしている状態を示します。USB通信モジュールの場合は、通信が行われている（データがやり取りされている）状態を示します。
	オレンジで点灯	異常な動作時を示します。USBデバイスが正しく接続されていない、USBデバイスが故障している、または未サポートのUSBデバイスが接続されていることを示します。
	オレンジで点滅	USB通信モジュールを接続している場合に、無線通信の電波状態が悪いことを示します。
SLOT	緑色で点灯	ExpressCardスロットが正常であることを示します。
	緑色で点滅	通信が行われている（データがやり取りされている）状態を示します。
	オレンジで点灯	異常な動作時を示します。ExpressCardが正しく接続されていない、ExpressCardが故障している、または未サポートのExpressCardが接続されていることを示します。
	オレンジで点滅	無線通信の電波状態が悪いことを示します。
CHECK	緑色で点灯	バックアップファームで運用していることを示します。
	緑色で点滅	構成定義を書き込んでいる、およびソフトウェアを更新していることを示します。
	オレンジで点灯	異常であることを示します。弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。
FUNC	—	未使用
PPPoE	緑色で点灯	PPPoE接続で通信可能であることを示します。複数のPPPoE設定が存在する場合は、どれかが通信可能な状態になったことを示します。
	緑色で点滅	PPPoE接続処理中、またはSELECTボタンで機能を選択中であることを示します。
	緑色とオレンジで交互点滅	SELECTボタン/ENTERボタンで機能選択し、RESETボタン押下待ち状態であることを示します。
VPN	緑色で点灯	自動鍵交換で送受信のIPsec-SAが存在することを示します。複数のIPsec設定が存在する場合は、IPsec-SAが存在することを示します。
	緑色で点滅	SELECTボタンで機能を選択中であることを示します。



- I'm here設定時は、POWERランプとCHECKランプが指定時間だけ交互に点滅します。
- ECOモード設定時は、通信中でもPOWERの緑点灯だけになります。

1.1.3 本装置 インタフェース面



- 型名／号機ラベル 型名、製造号機などが記載されています。
- 電源コネクタ 同梱の電源ケーブルの先を差し込みます。
- 電源スイッチ 「-」側へ押しすと、電源が入ります。
「○」側へ押しすと、電源が切れます。
- USB2ポート USBデバイス（USB通信モジュール／USBメモリ）を接続します。
構成定義情報およびソフトウェアを退避／復元する場合に使用します。

☛ 参照 [3.2 ソフトウェアを更新（インストール）する] (P.64)

- コンソールポート コンソールケーブルでパソコンと接続します。



本製品には、コンソールケーブルは同梱されていません。
ケーブルについては、以下の富士通ホームページをご覧ください。
URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable3/>

⚠ 注意

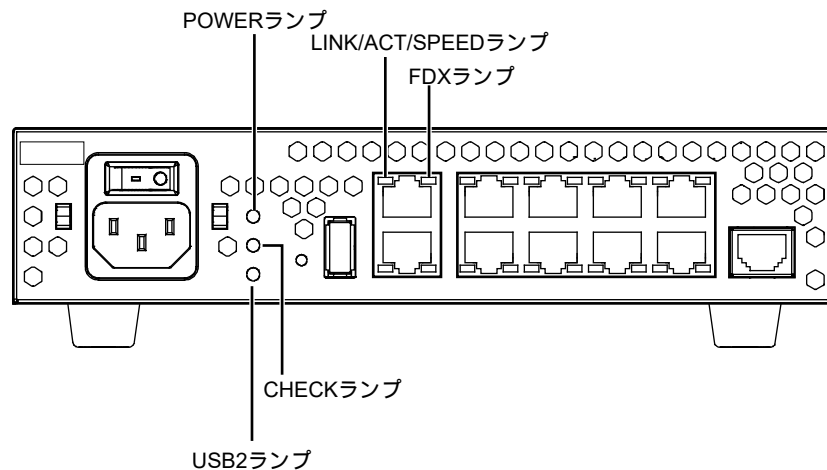
コンソールポートはパソコンのRS232Cインタフェースと接続するためのポートです。ほかのインタフェース（LAN/ISDNなど）を接続しないでください。故障の原因となります。

☛ 参照 マニュアル「仕様一覧」

- リセットスイッチ スイッチを押すと、再起動します。
- 10/100/1000BASE-Tポート 10/100/1000MbpsのHUB装置、パソコンおよびワークステーションとつなぐときに使用します。カテゴリ5eのケーブルを差し込みます。

☛ 参照 マニュアル「仕様一覧」

ランプの詳細



- POWERランプ 電源の状態を表示します。
- LINK/ACT/SPEEDランプ リンク状態／通信状態／通信速度を表示します。

☞ 参照 マニュアル「仕様一覧」

- FDXランプ 通信方式 (Duplex) の状態を表示します。



Duplex (デュプレックス) は通信方式を示します。
本装置では HALF Duplex (半二重) と FULL Duplex (全二重) をサポートしています。

こんな事に気をつけて

LINK/ACT/SPEEDランプは、リンク状態のときだけ状態を表示することができます。
インターフェースが定義されていない場合、またはリンク状態でない場合は、点灯しません。

- CHECKランプ 異常な動作時は、橙色で点灯します。弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。

こんな事に気をつけて

CHECKランプが緑色で点滅しているとき、電源の切断およびリセットを行わないでください。構成定義が破壊される場合があります。

☞ 参照 マニュアル「トラブルシューティング」

- USB2ランプ USB2ポートの状態を表示します。

こんな事に気をつけて

USB2ランプが緑色で点滅しているとき、USBメモリの取り外し、本装置の電源切断、およびリセットを行わないでください。USBメモリの内容が破壊される場合があります。

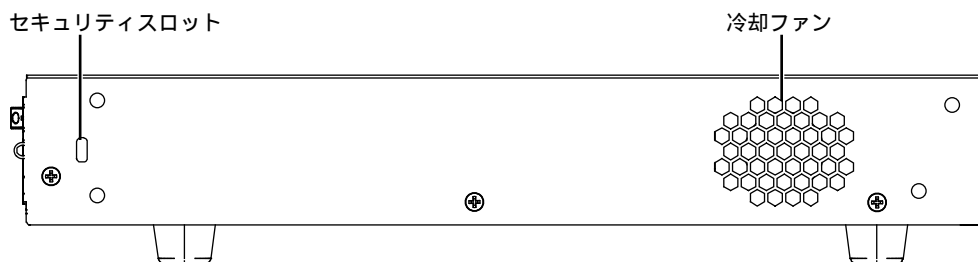
各ランプの表示内容

ランプ名	表示	状態
POWER	緑色で点灯	電源が投入され、装置が起動したことを示します。
	緑色で点滅	電源が投入され、装置が診断中であることを示します。
	消灯	電源が未投入であることを示します。
LINK/ACT/SPEED	緑色で点灯	1000Mbps でリンクが確立していることを示します。
	緑色で点滅	1000Mbps で通信中であることを示します。
	橙色で点灯	100Mbps または 10Mbps でリンクが確立していることを示します。
	橙色で点滅	100Mbps または 10Mbps で通信中であることを示します。
	消灯	リンクが未確立であることを示します。
FDX	緑色で点灯	LINK/ACT/SPEED ランプが点灯または点滅しているとき、全二重状態でリンクが確立していることを示します。
	消灯	LINK/ACT/SPEED ランプが点灯または点滅しているとき、半二重状態でリンクが確立していることを示します。
CHECK	緑色で点灯	バックアップファームで運用していることを示します。
	緑色で点滅	構成定義を書き込んでいる、およびソフトウェアを更新していることを示します。
	橙色で点灯	異常であることを示します。 弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。
USB2	緑色で点灯	USB2 ポートに USB デバイスが接続され、正常な動作をしている状態を示します。
	緑色で点滅	USB メモリを接続している場合は、リード/ライドしている状態を示します。 USB 通信モジュールの場合は、通信が行われている（データがやり取りされている）状態を示します。
	橙色で点灯	異常な動作時を示します。 USB デバイスが正しく接続されていない、USB デバイスが故障している、または未サポートの USB デバイスが接続されていることを示します。
	橙色で点滅	USB 通信モジュールを接続している場合に、無線通信の電波状態が悪いことを示します。



- I'm here 設定時は、POWER ランプと CHECK ランプが指定時間だけ交互に点滅します。
- ECO モード設定時は、通信中でも POWER の緑点灯だけになります。

1.1.4 本装置 側面



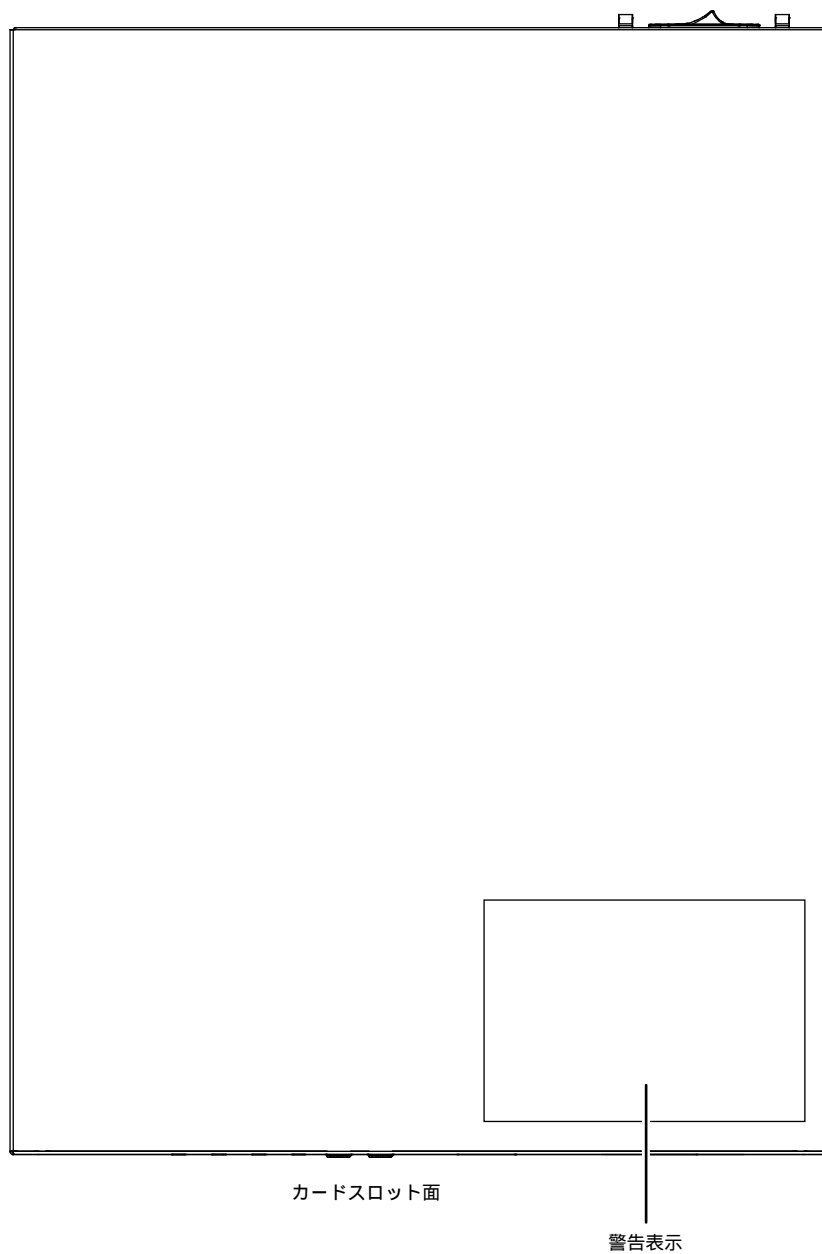
- **セキュリティスロット** 市販の盗難防止用ケーブルを接続します。セキュリティスロットは、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。盗難防止用ケーブルは、以下のものを購入してください。ほかの類似のケーブルは、取り付けられない場合があります。
商品名 : サンワサプライ ノートパソコンセキュリティキット
商品番号 : SL-38 (1705943)
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ: 電話番号0120-505-279)

こんな事に気をつけて

ラック搭載時はセキュリティスロットを使用できません。

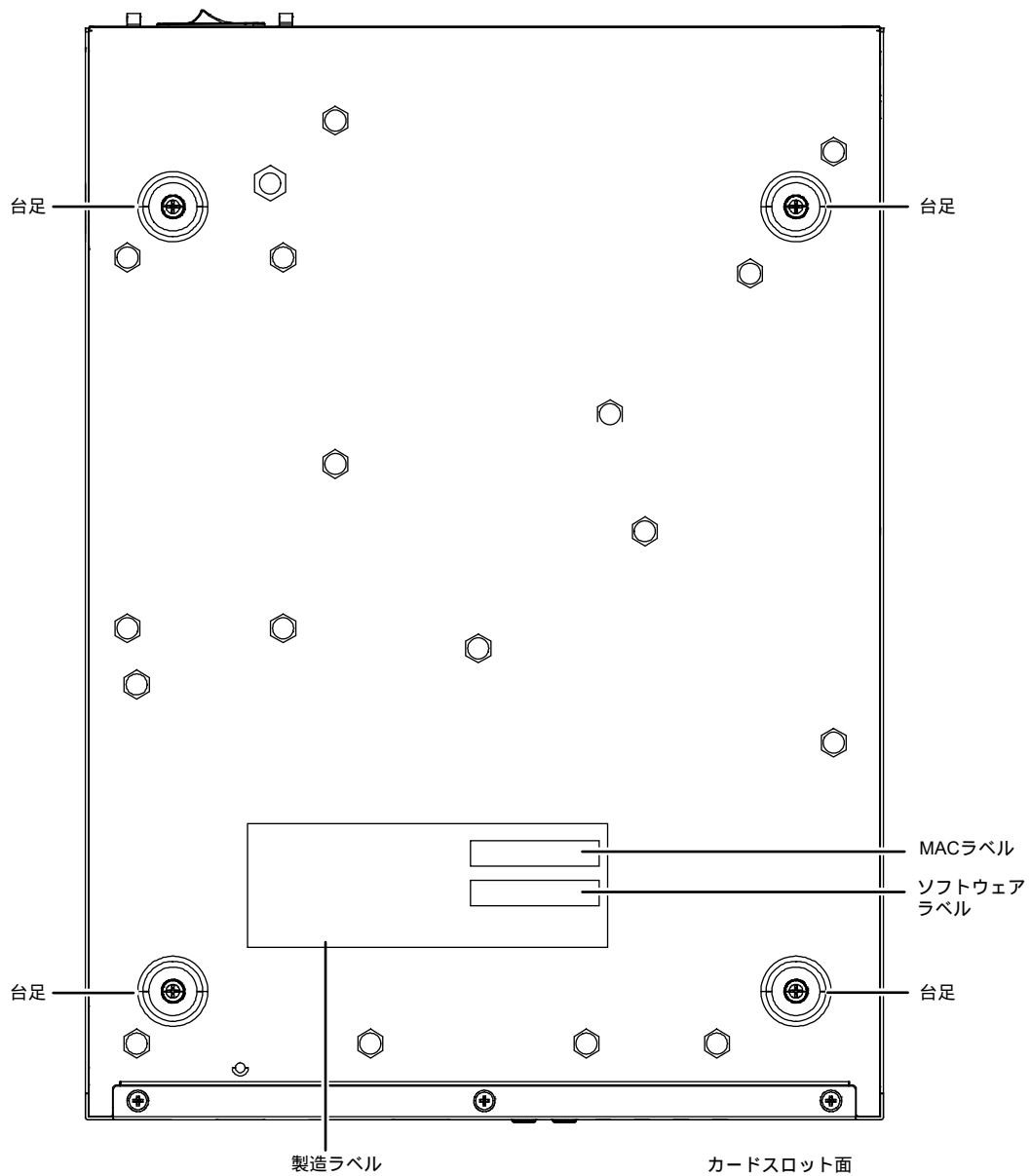
- **冷却ファン** 温度の条件で冷却が必要なときに動作します。

1.1.5 本装置 上面



- 警告表示 本装置の取り扱い上、注意していただきたいことが記載されています。

1.1.6 本装置 底面



- 台足 本装置を卓上、または卓上の2段積みで使用する場合に必要です。
- MAC／ソフトウェアラベル

MAC. []	← グローバルMACアドレス
SOFT REV. []	← ソフトウェア版数
- 製造ラベル 型名、シリアル番号（製造号機）、製造年月、技術基準などが記載されています。

1.2 ケーブル抜け防止金具の取り付け／取り外し方法

同梱のケーブル抜け防止金具を使用することによって、電源ケーブルの抜けを防止できます。

⚠警告

本装置を鍵が掛かるラックに搭載して、電源ケーブルを同梱のケーブル抜け防止金具で固定する場合、ラック内部のサービスコンセントを使用してください。

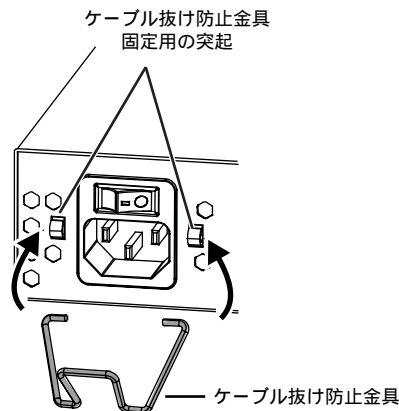
ラック外部のコンセントを使用する場合は、別途ラック内部で電源ケーブルを固定してください。電源ケーブルに外部からの張力が加わると、ケーブル抜け防止金具に不測の力が加わり、電源ケーブルの断線・接触不良を起こし、感電・火災の原因となります。

ケーブル抜け防止金具の取り付け

以下に、ケーブル抜け防止金具の取り付け手順を示します。

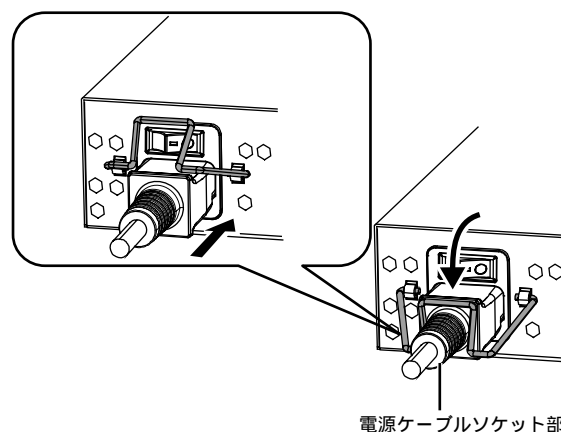
1. 本装置にケーブル抜け防止金具を取り付けます。

本装置の電源コネクタ両端の突起部に、ケーブル抜け防止金具の両端を引っ掛けて取り付けます。



2. 電源ケーブルを固定します。

電源ケーブルを接続し、ケーブル抜け防止金具を図のように電源ケーブルのソケット部に引っ掛けて電源ケーブルを固定します。



ケーブル抜け防止金具の取り外し

ケーブル抜け防止金具の取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。



ケーブル抜け防止金具を上下方向に回転させることで、電源ケーブルを固定／固定解除することができます。ケーブルの固定を解除することで、電源ケーブルの抜き差しができます。

第2章 機器の設置

2

この章では、本装置の設置、設定用パソコンの接続およびSi-R効率化運用ツールの導入方法について説明します。

2.1	設置環境を確認する.....	27
2.1.1	設置条件を確認する.....	27
2.1.2	設置（保守）スペースを確認する.....	29
2.2	本装置を設置する（ラック搭載時）.....	31
2.2.1	ラックに搭載する.....	32
2.3	ExpressCardを取り付ける.....	34
2.3.1	ExpressCardを取り付ける.....	34
2.3.2	ExpressCardを取り出す.....	35
2.3.3	盗難防止機構を取り付ける.....	36
2.4	USB通信モジュールを使う.....	38
2.4.1	USB通信モジュールを取り付ける.....	38
2.4.2	USB通信モジュールを交換する（取り外す）.....	39
2.5	設定用パソコンを接続する.....	40
2.5.1	LANで接続する.....	40
2.5.2	コンソールポートに接続する.....	47
2.6	電源を投入／切断する.....	50
2.6.1	電源ケーブルを接続する.....	50
2.6.2	電源を投入／切断する.....	51
2.7	時刻を設定する.....	52
2.8	Si-R効率化運用ツールで導入作業を行う.....	53
2.8.1	設定シートとSi-R効率化運用クライアント画面.....	55
2.9	USBメモリを使う.....	58
2.9.1	USBメモリを取り付ける.....	58
2.9.2	USBメモリを交換する（取り外す）.....	59
2.10	外部メディアスタート機能を設定する.....	60
2.11	ランプをECOモードにする.....	61

2.1 設置環境を確認する

設置する前に、以下のことを確認してください。

- ・ 同梱の「ご使用になる前に」に記載されている本装置およびオプションの梱包内容がすべてそろっている。
- ・ 各インタフェースコネクタに接続するケーブルが、各インタフェースの用途に適合している。

⚠ 警告

インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。
感電・故障の原因となります。

☞ 参照 [1.1.1 梱包内容] (P.16)

2.1.1 設置条件を確認する

本装置では、以下の環境を確保して設置してください。

⚠ 注意

以下の条件を守って設置してください。条件以外の環境で本装置を使用すると、故障の原因となります。

湿温度条件

	温度 (°C)	湿度 (%RH)
動作時	0～40	15～85
休止時	0～50	8～90

電源条件

項目	条件
電圧	AC90-264V (※)
周波数	50Hz / 60Hz +2%、-4%
アース	空調アース、建屋アースと同一でないこと、D種接地（第三種接地）以上
電力	供給電源は30W以上の容量を供給


※) 本製品はAC100-240Vで動作しますが、同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、別途オプション (SJ-PWCBL2) の専用ケーブルをご使用ください。

設置条件

項目	可否	条件
縦置き	×	—
平置き	○	装置から台足を取り外さないでご利用ください。
段積み	○	多段積みは2段までご利用になれます。 装置から台足を取り外さないでご利用ください。

チェックリスト

条件が守られているかを以下のチェックリストで確認してください。

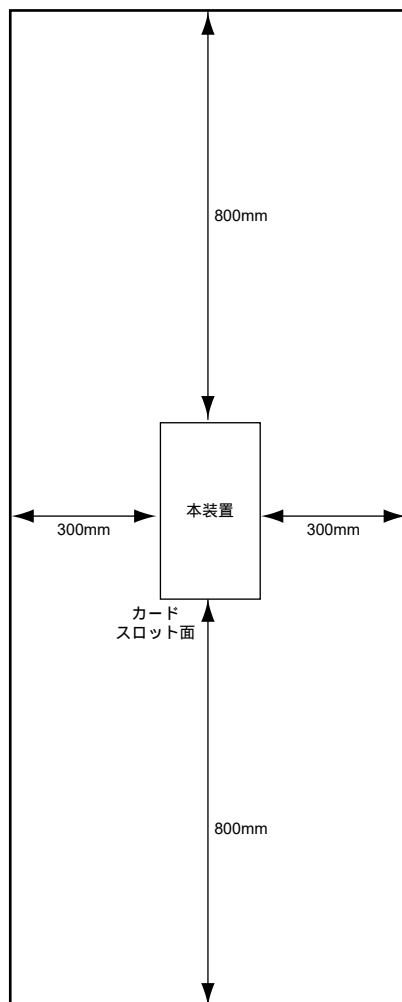
チェック内容	チェック結果
本装置の上に物をのせていない	
本装置の通気孔をふさいでいない	
本装置を縦置きにしていない	
本装置の設置場所は直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所ではない	
本装置の設置場所は振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所ではない	
本書の「安全上のご注意」を読みました  参照 (P.8)	

2.1.2 設置（保守）スペースを確認する

本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

保守スペースを確保する

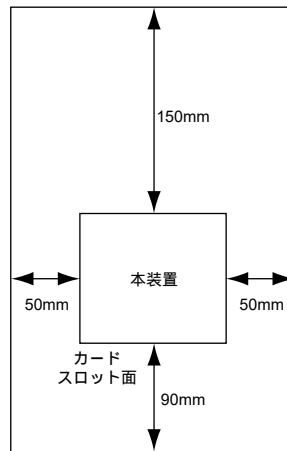
保守を行う場合は、以下の保守スペース（サービスエリア）を確保してください。



設置スペースを確保する

設置する場合は、以下の設置スペースを確保してください。

卓上に設置する



2.2 本装置を設置する（ラック搭載時）

本装置は、卓上またはラックに設置することができます。

ここでは、本装置をラックに搭載する方法について説明します。

設置する際は、安全に保守を行うために、前後のスペースを確保してください。

⚠注意

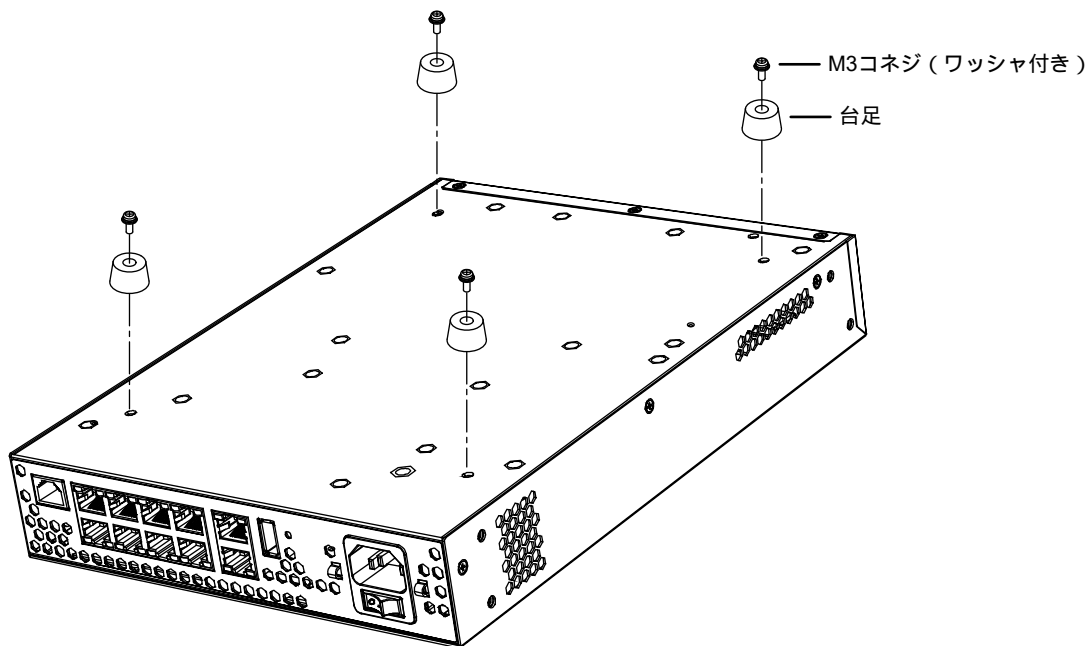
本装置の設置時は、必ず本装置の電源を切ってください。故障の原因となります。

台足を取り外す

本装置をラックに搭載する場合は、台足を取り外してから設置してください。それ以外の場合は、台足を取り外さないでください。

以下に、台足の取り外し手順を示します。

1. 本装置の上面と底面を逆にして平面上に置きます。
2. M3 コネジ（ワッシャ付き）を外して、台足を取り外します。



2.2.1 ラックに搭載する

本装置は、ラックに搭載して運用することができます。

オプションのラック搭載機構を用意します。

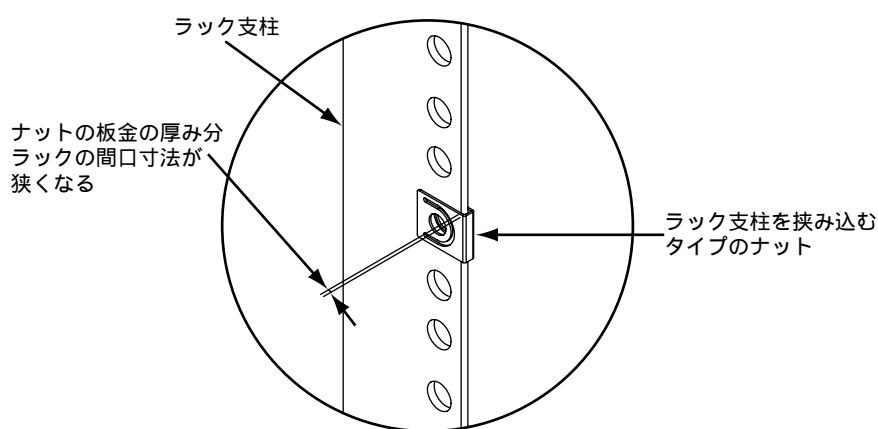
本装置を1Uスペースに1台搭載する手順を、以下に示します。

⚠注意

ラック搭載機構をラックに搭載した場合、ラック搭載機構の金具がラック裏面側支柱からはみ出します。ラックの背面で作業する際は、はみ出している金具に注意してください。負傷するおそれがあります。

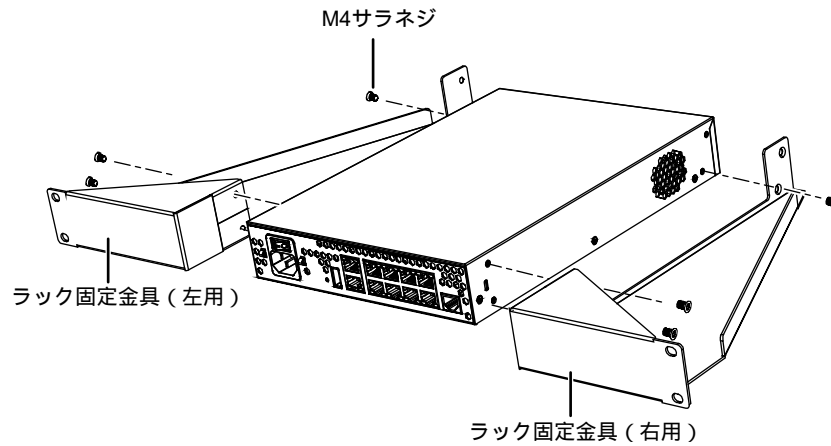
こんな事に気をつけて

- ラック搭載時は、本装置の台足を取り外してください。
- ラックおよびラックの支柱の穴の形状により、同梱のネジおよびケージナットが使用できないことがあります。そのときは、ラックに合った固定用のネジおよびナットを用意してください。その際、以下に示すような、ラックの支柱を挟み込むタイプのナットを使用すると、ラックの間口を狭めてしまうため、本装置が搭載できなくなる場合があります。ナットの選定には、注意してください。

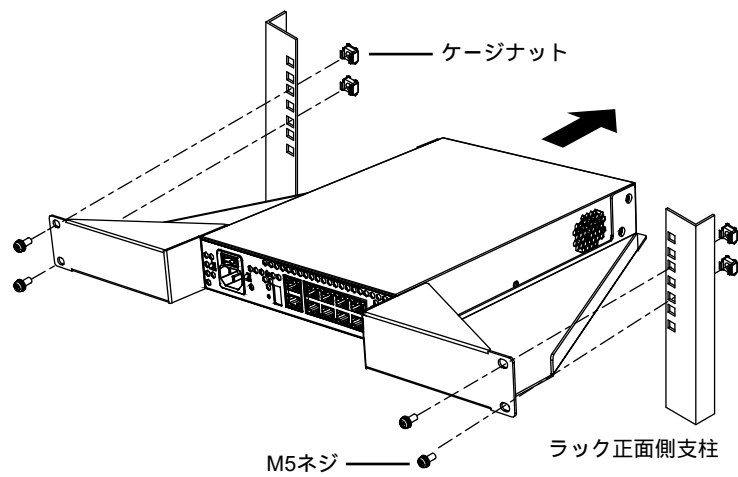


1Uスペースに本装置を搭載する

1. 本装置にラック固定金具（右用、左用）をM4サラネジ（6個）で固定します。



2. 手順1. で本装置に取り付けたラック固定金具を、ラック正面側支柱の内側からケージナット、外側からM5ネジ（4個）で固定します。



2.3 ExpressCardを取り付ける

本装置は、ExpressCardを使用できます。

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、ExpressCardをお使いになるときは、以下の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。



本装置は、ExpressCard/34 モジュールのみサポートしています。

ExpressCard/54 モジュールは、サポートしていません。

対応データ通信モジュールは、

富士通ホームページ (<http://fenics.fujitsu.com/products/sir/sirg200/#supportcard>) を参照してください。

2.3.1 ExpressCardを取り付ける

ExpressCardの取り付け手順について説明します。

⚠注意

ExpressCardを取り付けるときは、ExpressCard スロットに指を入れしないでください。

けがの原因となることがあります。

ExpressCardは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。ExpressCardを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1. ExpressCard スロットキャップを外します。

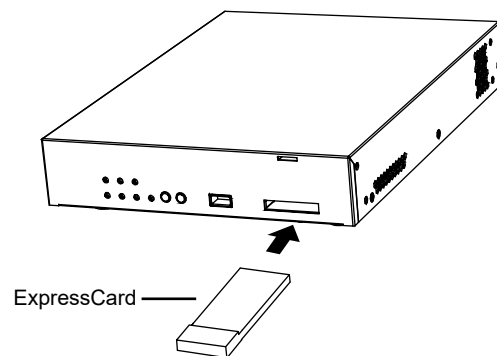
こんな事に気をつけて

取り外したExpressCard スロットキャップは、ExpressCard未使用時に取り付ける必要があります。

保管しておいてください。

2. 本装置カードスロット面のExpressCard スロットに、ExpressCardを取り付けます。

ExpressCardを正しい方向でExpressCard スロットにゆっくりと最後まで差し込みます。



⚠注意

- うまくセットできない場合は一度 ExpressCard を取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。
また、お使いになる ExpressCard のマニュアルもご覧ください。
- コード付きの ExpressCard をお使いの場合、ExpressCard とコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけないでください。破損の原因となります。
- 本装置には ExpressCard のロック機構がありません。コード付きの ExpressCard や、ケーブルを接続している ExpressCard は、コードやケーブルを引っ張らないでください。ExpressCard が抜けるおそれがあります。
- ExpressCard の種類によっては、ExpressCard スロットから ExpressCard が飛び出した状態でセットされるものがあります。ExpressCard の飛び出した部分をぶつけないでください。破損の原因となります。

2.3.2 ExpressCard を取り出す

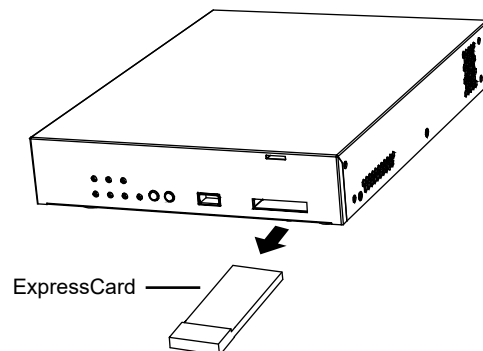
ExpressCard の取り出し手順について説明します。

⚠注意

- ExpressCard は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。ExpressCard を取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- コード付きの ExpressCard を取り出す場合、ExpressCard のコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ExpressCard を取り出す場合は、以下で説明する手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ExpressCard の使用終了直後は、ExpressCard が高温になっていることがあります。ExpressCard を取り出すときは、手順 1 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となる場合があります。
- ExpressCard を取り出すときは、ExpressCard スロットに指などを入れないでください。けがの原因となる場合があります。

1. ExpressCard を取り出します。

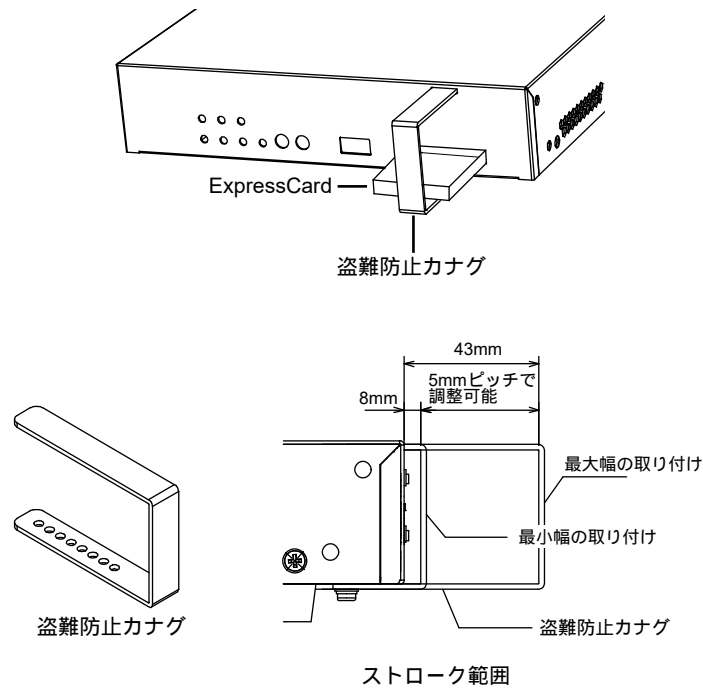
ExpressCard をゆっくりと押し込みロックを解放して、ExpressCard を取り出します。

**こんな事に気をつけて**

ExpressCard スロット未使用時は、ほこり侵入防止のため ExpressCard スロットキャップを取り付けてください。

2.3.3 盗難防止機構を取り付ける

盗難防止機構を使用することによって、ExpressCard を容易に盗難されないように保護することができます。ただし、盗難防止を保証するものではありません。



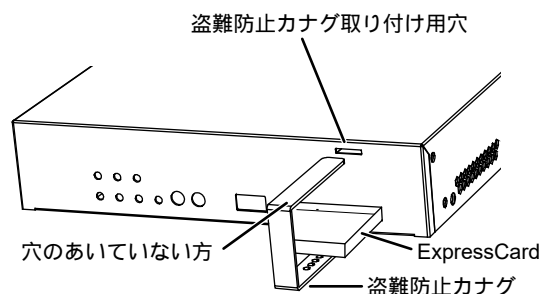
盗難防止機構の取り付け可能な ExpressCard は、富士通ホームページ (<http://fenics.fujitsu.com/products/sir/sirg200/#supportcard>) を参照してください。ExpressCard の形状によっては、取り付けできない、または搭載スロットに制約が生じる場合があります。

こんな事に気をつけて

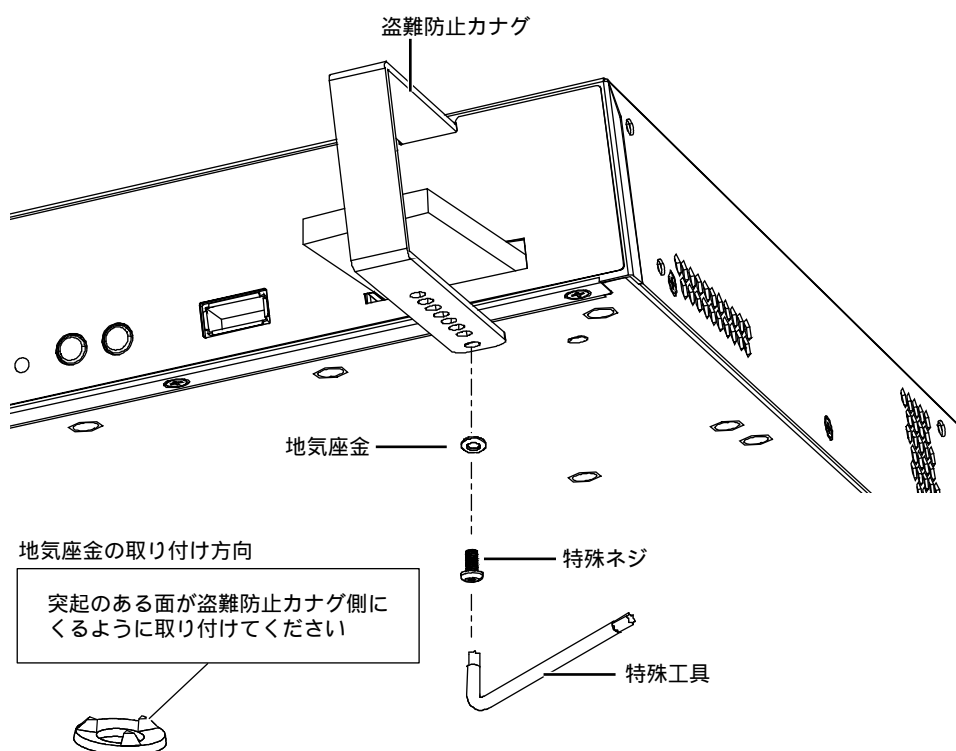
- 盗難防止機構は、ExpressCard の接続ロック機構ではありません。
- 盗難防止機構は、机上に置く場合に使用できます。ラックに搭載する場合は使用できません。
- 盗難防止カナグは、装置正面から 5mm ごとに 8～43mm で調整できます。

以下に、盗難防止機構の取り付け手順を示します。

- 盗難防止カナグの穴のあいていない方を、本装置カードスロット面の盗難防止カナグ取り付け用穴に差し込みます。



2. 盗難防止カナグを ExpressCard とカナグのすきまが最小になるように調整し、本装置の底面から同梱の特殊ネジと特殊工具で固定します。



こんな事に気をつけて

- 盗難防止カナグを取り付ける際は、必ず地気座金を使用してください。
- 盗難防止カナグの取り付け位置を変更する場合は、地気座金を予備の新しいものと交換してください。



盗難防止機構を装置から取り外す場合は、取り付け方法の逆の手順で行ってください。

2.4 USB通信モジュールを使う

本装置は、USB通信モジュールを使用できます。

USB通信モジュールは、本装置カードスロット面に取り付けます。



対応データ通信モジュールは、
富士通ホームページ (<http://fenics.fujitsu.com/products/sir/sirg200/#supportcard>) を参照してください。



通信異常が発生するおそれがありますので、アクセス中は抜かないでください。

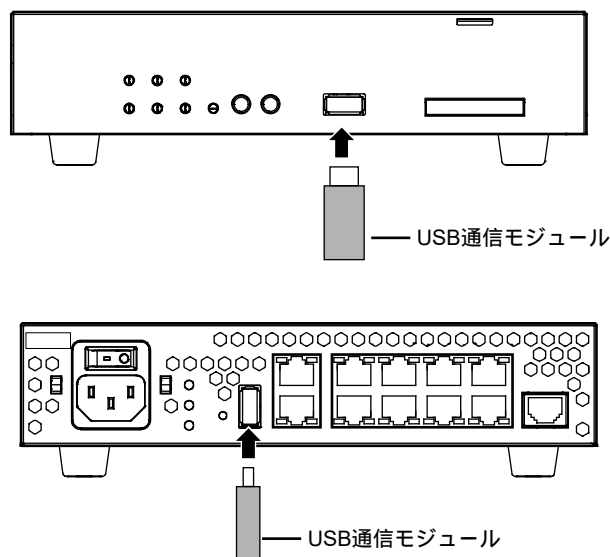
こんな事に気をつけて

USB通信モジュールは電源を投入したまま、取り付け/取り外しが可能です。

2.4.1 USB通信モジュールを取り付ける

USB通信モジュールの取り付け手順について説明します。

1. USB通信モジュールを本装置カードスロット面のUSB1ポート、またはインタフェース面のUSB2ポートに最後まで差し込みます。



2.4.2 USB通信モジュールを交換する（取り外す）

USB通信モジュールの交換（取り外し）手順について、USB1ポートを使用した場合を例に説明します。

こんな事に気をつけて

usbctl コマンドをポートオプションなしで実行した場合は、USBポートに実装されているUSB通信モジュールだけでなく、ExpressCardスロットに実装されているデータ通信モジュールやUSBポートに実装されているUSBメモリも制御されますのでご注意ください。

1. TELNET またはコンソールから、USB1ポートを安全な取り外しが可能な状態にします。

```
# usbctl eject usb 1
```

2. USB1ポートが安全な取り外しが可能な状態になったことを確認します。
本装置のUSB1ランプが消灯したことを確認します。
3. 本装置からUSB通信モジュールを取り外します。



USB通信モジュールを取り外すだけの場合は、ここまでの手順で終わりです。

4. 交換するUSB通信モジュールを本装置に取り付けます。
5. USB1ポートが使用可能な状態になったことを確認します。
本装置のUSB1ランプが緑色で点灯したことを確認します。

2.5 設定用パソコンを接続する

設定用パソコンを本装置に接続します。



ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気を除電してください。除電については、「[ツイストペアケーブルの除電について](#)」(P.11)を参照してください。

2.5.1 LANで接続する

必要なハードウェア／ソフトウェア

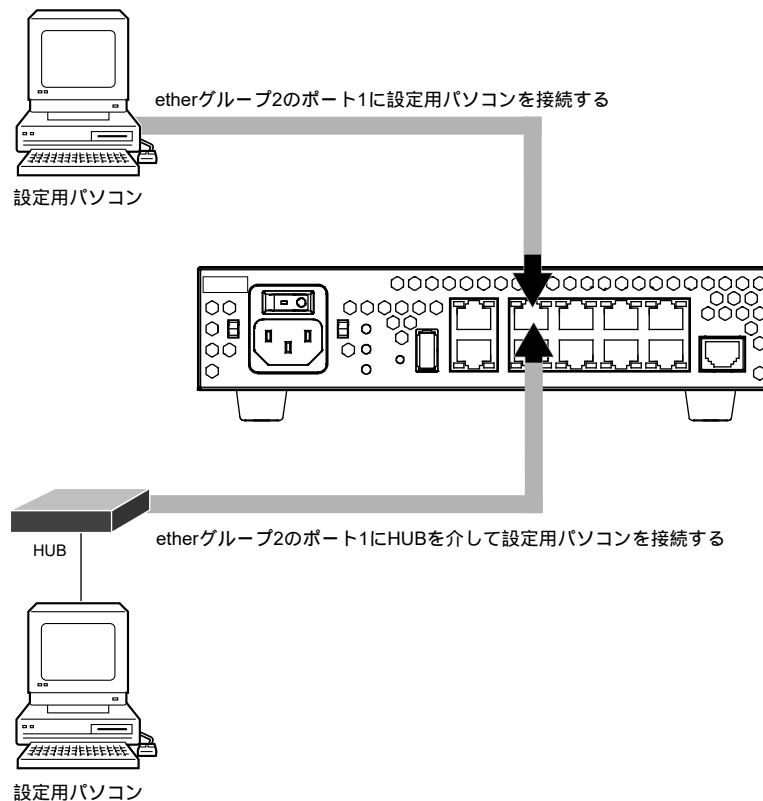
本装置を接続するために、以下のハードウェアとソフトウェアを用意します。

- パソコン
設定用のパソコンが1台必要です。
- LANカード
設定用のパソコンにLANカードが装着されている必要があります。パソコンにLANポートがある場合は、LANカードを装着する必要はありません。
- LANケーブル
本装置および設定用のパソコンをつなぐLANケーブルが必要です。
- TCP/IPソフトウェア
telnetまたはsshが使用できるオペレーティングシステムが必要です。

LAN ケーブルを接続する

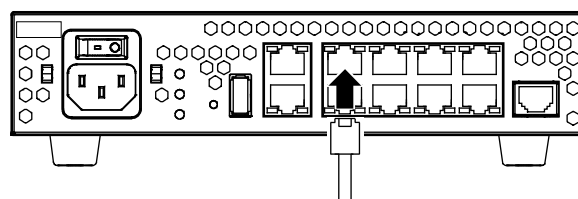
本装置は、AutoMDI/MDI-X機能をサポートすることにより、LANポートに差し込んだケーブルがストレートケーブルであるか、クロスケーブルであるかを自動認識し、パソコンとHUBを意識しないでLANケーブルを接続することができます。

☛ 参照 マニュアル「仕様一覧」



設定用パソコンと本装置をLANケーブル（ストレート）で直接つなぐ手順を説明します。

1. パソコンの10/100/1000BASE-TポートにLANケーブルの一方の端を差し込みます。
LANケーブルの接続、取り外しには電源を切る必要はありません。
2. 本装置のetherグループ2のポート1にLANケーブルのもう一方の端を差し込みます。




こんな事に気をつけて

- ご購入時は、etherグループ2のポート1からだけ設定できます。
- ご購入時のetherグループ2のポート1は、MDIを自動検出する設定になっています。etherグループ2のポート1に接続する機器（パソコン、HUBなど）もMDIを自動検出する設定になっている場合、正常に接続できないことがあります。この場合は、接続する機器のMDIの自動検出を無効に設定してください。

電源を投入する

本装置の電源が切断されている場合は、電源を投入します。

☛ 参照 [2.6 電源を投入/切断する] (P.50)

 補足 LANケーブルの接続、および取り外しに際して電源を切断する必要はありません。

設定用パソコンを準備する

ここでは、Windows 2000、Windows XP および Windows Vista のパソコンを設定する手順について説明します。


ほかの OS をお使いの場合は、パソコンまたは OS をご購入時に同梱のマニュアルを参照してください。

Windows デスクトップの設定で「Web スタイル」を指定してある場合は、「ダブルクリック」と記載してあるところは「シングルクリック」で操作することができます。

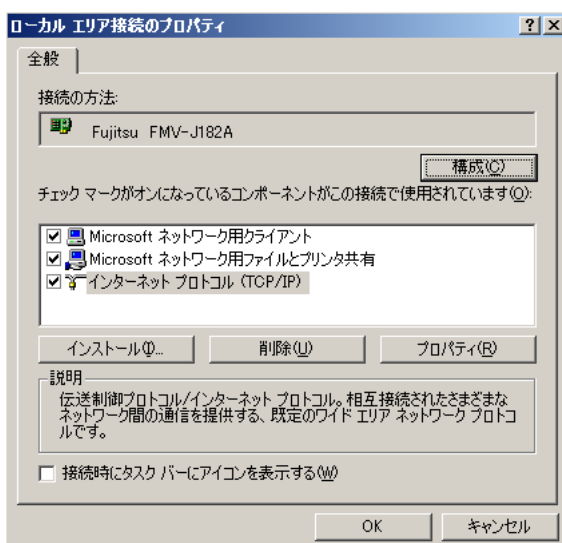
パソコンを設定する

● Windows 2000 の場合

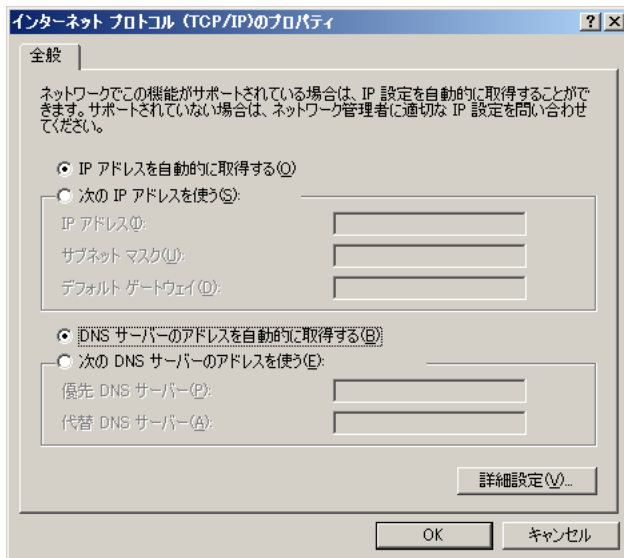
1. [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックします。
2. [ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックして開きます。
3. [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. 一覧にインターネットプロトコル (TCP/IP) が存在していることを確認します。

 補足 一覧に TCP/IP が見つからない場合は、TCP/IP のインストールが必要です。Windows 2000 のマニュアルを参照して、インストールしてください。

5. 一覧から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択します。



6. [プロパティ] ボタンをクリックします。
[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



7. パソコンの IP アドレスを指定します。
「IP アドレスを自動的に取得する」を選択します。
IP アドレスを固定で設定する場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択して、本装置と同じネットワークの IP アドレス／サブネットマスクを指定します。
本装置のご購入時の IP アドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。
8. [OK] ボタンをクリックします。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスに戻ります。
9. [OK] ボタンをクリックします。
パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。
10. [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。
設定した内容は、再起動後に有効になります。

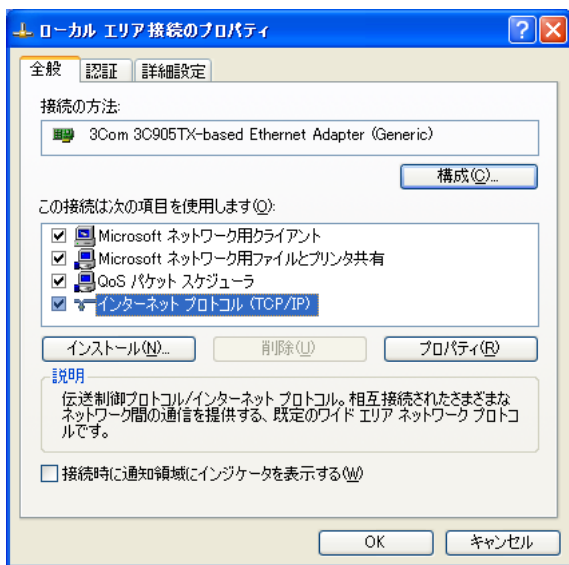
● Windows XP の場合

1. [スタート] - [コントロールパネル] をクリックします。
2. [ネットワーク接続とインターネット接続] をクリックします。
3. [ネットワーク接続] をクリックします。
4. [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
5. 一覧にインターネットプロトコル (TCP/IP) が含まれていることを確認します。

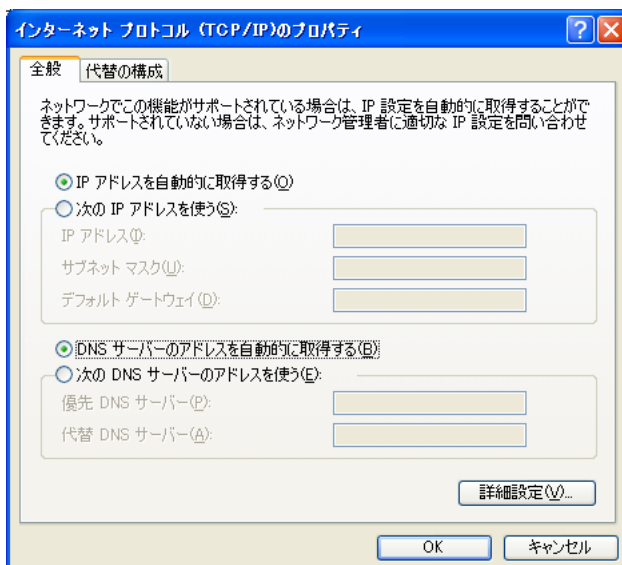


一覧に TCP/IP が見つからない場合は、TCP/IP のインストールが必要です。Windows XP のマニュアルを参照して、インストールしてください。

6. 一覧から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択します。



7. [プロパティ] ボタンをクリックします。
[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



8. パソコンのIPアドレスを指定します。

「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

IPアドレスを固定で設定する場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、本装置と同じネットワークのIPアドレス/サブネットマスクを指定します。

本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。

9. [OK] ボタンをクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。

10. [OK] ボタンをクリックします。

パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。

11. [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

設定した内容は、再起動後に有効になります。

● Windows Vista の場合

1. [スタート] - [コントロールパネル] をクリックします。

2. [ネットワーク接続とインターネット接続] をクリックします。

3. [ネットワークと共有センター] をクリックします。

4. [ネットワーク接続の管理] をクリックします。

5. [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

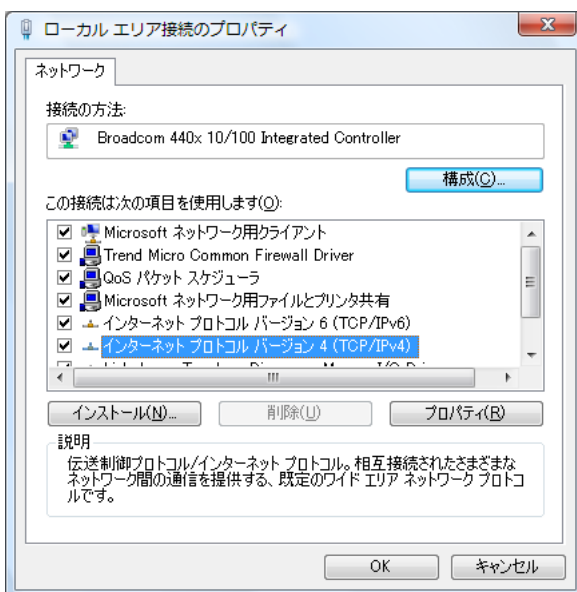
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

6. 一覧にインターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) が含まれていることを確認します。



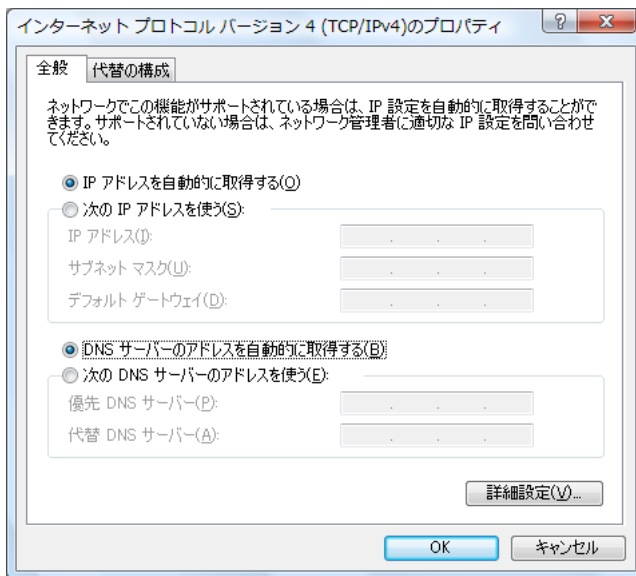
一覧にTCP/IPが見つからない場合は、TCP/IPのインストールが必要です。Windows Vistaのマニュアルを参照して、インストールしてください。

7. 一覧から「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択します。



8. [プロパティ] ボタンをクリックします。

[インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



9. パソコンの IP アドレスを指定します。

[IP アドレスを自動的に取得する] を選択します。

IP アドレスを固定で設定する場合は、[次の IP アドレスを使う] を選択して、本装置と同じネットワークの IP アドレス/サブネットマスクを指定します。

本装置のご購入時の IP アドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。

10. [OK] ボタンをクリックします。

[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスに戻ります。

11. [OK] ボタンをクリックします。

パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。

12. [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

設定した内容は、再起動後に有効になります。



IP アドレスなどの設定を確認する

IP アドレスやアダプタアドレス (MAC アドレス) など現在の IP 設定情報を確認できるコマンドがあります。以下のように操作します。

- Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 の場合
 1. [スタート] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を選択します。
 2. 「ipconfig」を指定します。

telnet でログインする

設定用のパソコンがWindowsの場合は、以下のように操作します。

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [telnet (本装置のIPアドレス)] を指定します。

こんな事に気をつけて

- 5分間（ご購入時の状態）、入力がないと telnet が切断されます。
- [Return] キーまたは [Enter] キーを押したとき、以下のメッセージが表示され、処理に時間がかかることがあります。このとき、本装置ではほかの処理が行われており、その処理の終了待ちの状態です。少しの間お待ちください。
Waiting for completion of the other operation...

ssh でログインする

ssh でログインするには、ssh クライアントソフトウェアが別途必要です。

ssh クライアントソフトウェアのマニュアルを参照して、本装置の IP アドレスを指定して接続してください。

こんな事に気をつけて

- 本装置では、SSH プロトコルバージョン 2 だけをサポートしていますので、SSH プロトコルバージョン 2 をサポートしている ssh クライアントソフトウェアを使用してください。
- パスワード入力時、2分間入力がないと ssh が切断されます。
- ssh でログイン後、telnet と同様に 5分間（ご購入時の状態）入力がないと ssh が切断されます。
- [Return] キーまたは [Enter] キーを押したとき、以下のメッセージが表示され、処理に時間がかかることがあります。このとき、本装置ではほかの処理が行われており、その処理の終了待ちの状態です。少しの間お待ちください。
Waiting for completion of the other operation...

2.5.2 コンソールポートに接続する

必要なハードウェア／ソフトウェア

本装置を接続するために、以下のハードウェアとソフトウェアを用意します。

- パソコン
設定用のパソコンが 1 台必要です。
- RS232C ケーブル
本装置と設定用のパソコンをつなぐ RS232C ケーブルが必要です。また、接続する際に、コンソールケーブルも使用します。



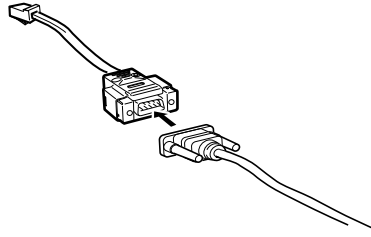
本製品には、コンソールケーブルは同梱されていません。
ケーブルについては、以下の富士通ホームページをご覧ください。
URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable3/>

☛ 参照 マニュアル「仕様一覧」

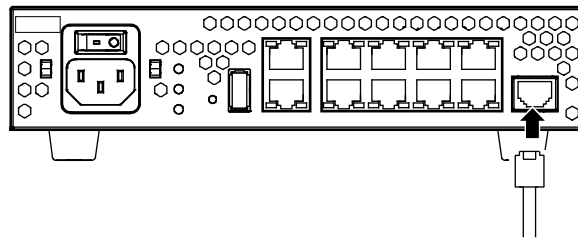
- 通信ソフトウェア
ターミナルソフトウェアが必要です。

RS232C ケーブルを接続する

1. RS232Cケーブルとコンソールケーブルを接続します。
コンソールケーブルの接続、取り外しには電源を切る必要はありません。



2. 本装置のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ45 プラグを差し込みます。



電源を投入する

本装置の電源が切断されている場合は、電源を投入します。

☞ 参照 [\[2.6 電源を投入/切断する\]](#) (P.50)



LAN ケーブルの接続、および取り外しに際して電源を切断する必要はありません。

設定用パソコンを準備する

ターミナルソフトウェアでログインする

1. 設定用のパソコンでターミナルソフトウェアを起動します。
2. 設定条件を以下のように設定します。

項目	設定値
スタート Bit	1
データ Bit	8
パリティ Bit	なし
ストップ Bit	1
同期方式	非同期
通信速度	9600
フロー制御	なし
画面桁数	80 (80 桁以外の場合、terminal コマンドで指示)
画面行数	24 (24 行以外の場合、terminal コマンドで指示)
漢字コード	ShiftJIS (EUC の場合、terminal コマンドで指示)

設定条件の設定方法については、ターミナルソフトウェアのマニュアルを参照してください。

3. [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
4. 画面に [Login] と表示されたことを確認します。
5. admin と入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
6. 画面に [Password:] が表示されたことを確認します。
7. パスワードを入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

初期状態ではパスワードが設定されていないので、何も入力しないで [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

パスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してから [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

8. 画面に [Si-R G200 #] と表示されたことを確認します。

パスワードが間違っている場合は、[<ERROR> Authentication failed.] と表示され、再び [Login] が表示されますので、5. からやり直してください。

こんな事に気をつけて

ログイン後、コマンドを実行する場合に以下のメッセージが表示され、処理に時間がかかることがあります。このとき、本装置ではほかの処理が行われており、その処理の終了待ちの状態です。少しの間お待ちください。
Waiting for completion of the other operation...

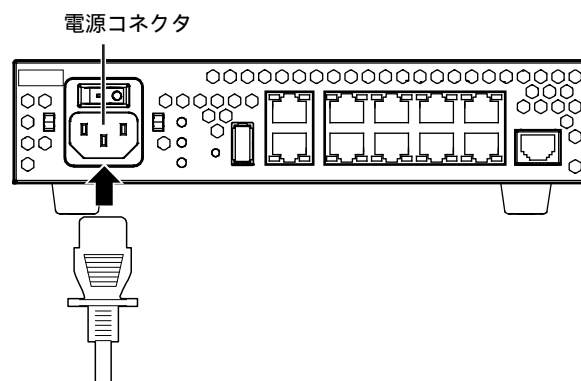
2.6 電源を投入／切断する

2.6.1 電源ケーブルを接続する

⚠ 警告

- 電源ケーブルは同梱のものを使用してください。また、同梱の電源ケーブルをほかの製品に使用しないでください。本製品はAC100-240Vで動作しますが、同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、別途オプション（SJ-PWCBL2）の専用ケーブルをご使用ください。
- 本装置の電源スイッチが「○」側へ押されていることを確認してから、電源ケーブルを電源コネクタに差し込んでください。

1. 本装置インタフェース面の電源コネクタに電源ケーブルを差し込みます。

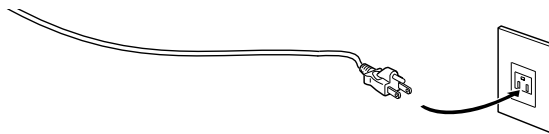


同梱のケーブル抜け防止金具を使用することにより、電源ケーブルの抜けを防止することができます。



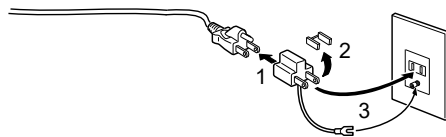
ケーブル抜け防止金具の取り付け／取り外し方法は、「1.2 ケーブル抜け防止金具の取り付け／取り外し方法」(P.25) を参照してください。

2. 本装置に差し込んだ電源ケーブルをコンセントにつなぎます。



電源ケーブルを2穴のコンセントに差し込む場合は、以下の手順でつないでください。

1. 電源ケーブルを平行2極接地用口出線付変換プラグにつなぎます。
2. 平行2極接地用口出線付変換プラグの端子に付いているカバーを外します。
3. 平行2極接地用口出線付変換プラグのアース線をコンセントのアース端子につなぎます。平行2極接地用口出線付変換プラグをコンセントにつなぎます。



⚠ 警告

平行2極接地用口出線付変換プラグをコンセントにつなぐ前に、必ずアース線を接続してください。

2.6.2 電源を投入／切断する

電源を投入する

1. 電源ケーブルが正しくつながれていることを確認します。
2. 電源スイッチを「-」側へ押して、本装置の電源を投入します。
本装置インタフェース面のPOWERランプが緑色で点滅します。
3. 本装置が起動したことを確認します。
本装置の起動が完了すると、POWERランプの点滅が停止し緑色の点灯になります。



電源が入ると、本装置は自動的に装置の状態を診断します。
装置に異常がない場合は、CHECKランプが消灯した状態で起動が完了します。

電源を切断する

電源の切断は、電源投入の逆の手順で行います。

2.7 時刻を設定する

本装置を設定する前に、必ず時刻を設定してください。

こんな事に気をつけて

本装置は72時間以上電源を切ったままにしておくと、時刻情報が失われます。

以下に、telnetまたはコンソールを使って手動で時刻を設定する場合のコマンド例を示します。

● コマンド

```
2011年1月1日12時30分00秒を設定する  
# date 2011/01/01.12:30:00
```

2.8 Si-R 効率化運用ツールで導入作業を行う

ここでは、「Si-R 効率化運用ツール」を使用して本装置を導入する場合の拠点側の操作について説明します。また、設定する際、必要事項を記載する「設定シート」を示します。

Si-R 効率化運用ツールについての詳細やセンタ側（サーバ）の操作方法については、「Si-R 効率化運用ツール使用手引書」を参照してください。



Si-R 効率化運用ツールは、以下の富士通ホームページからダウンロードしてください。

URL: <https://fenics.fujitsu.com/products/download/sir/firm/>

導入作業を行う前に、以下の2つについて確認してください。

- センタ側の設定が完了している。
- 接続についての必要事項が記入された「設定シート」を用意する。
「設定シート」がない場合は、センタ側のサーバ管理者に問い合わせてください。

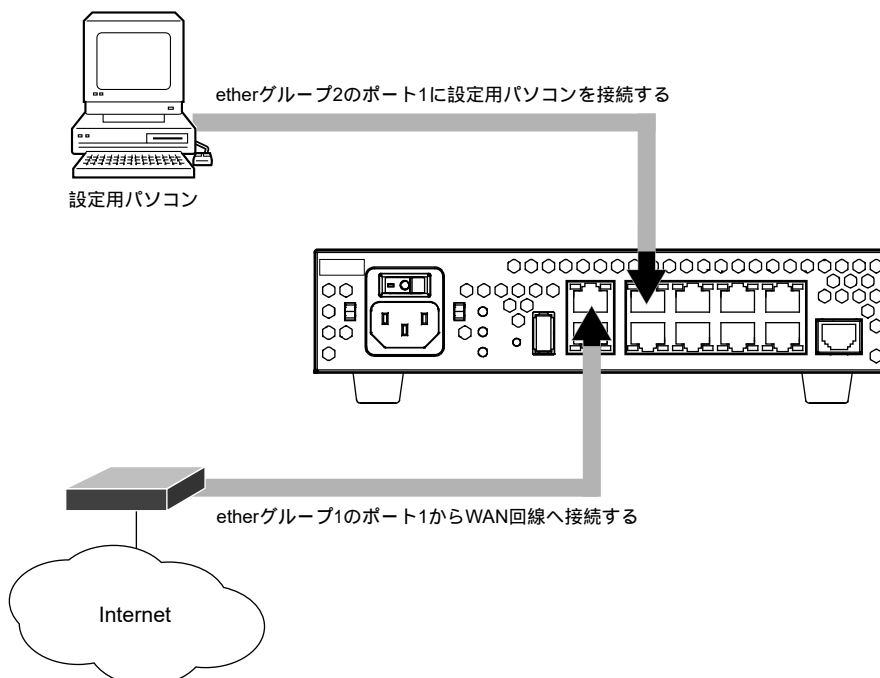
こんな事に気をつけて

Si-R 効率化運用クライアントは、導入する拠点のルータがご購入時の状態であることを前提に設定されています。導入する拠点のルータの構成定義情報がご購入時の状態になっていない場合は、ご購入時の状態に戻してから設定してください。

☛ 参照 マニュアル「トラブルシューティング」

Si-R 効率化運用ツールの導入作業の手順を、以下に示します。

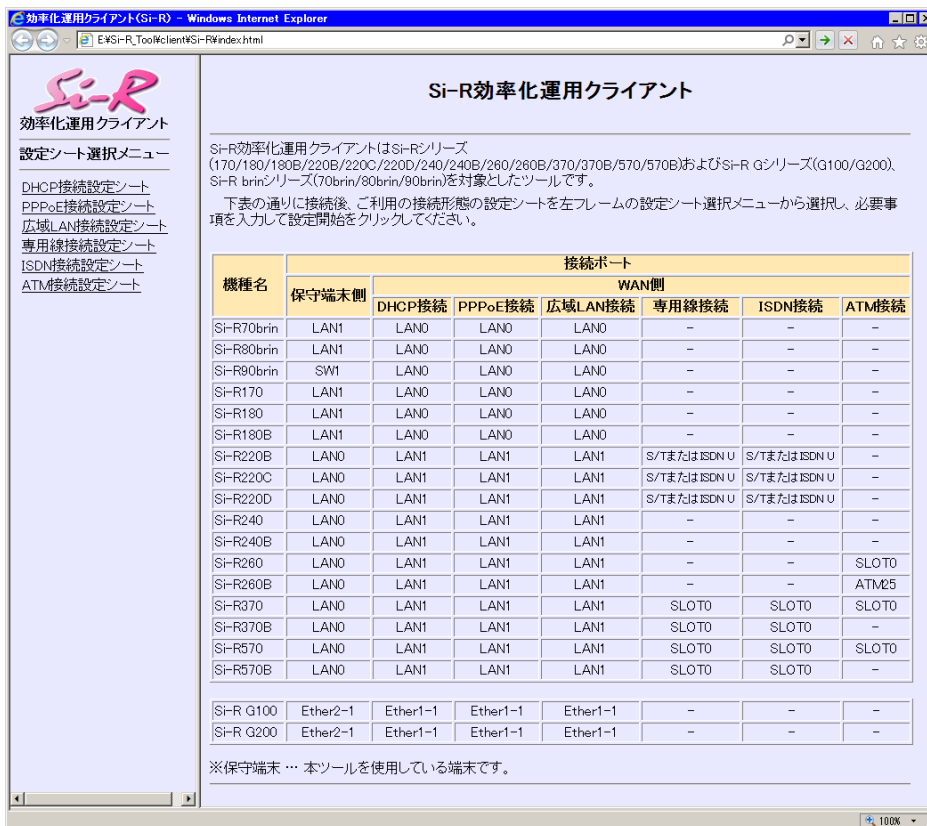
1. 本装置の ether グループ 2 のポート 1 を Si-R 効率化運用クライアントを使用するパソコンに接続し、ether グループ 1 のポート 1 を PPPoE 接続する WAN 側へ接続します。



2. 本装置の電源を投入します。

3. 「Si-R 効率化運用クライアント」を起動します。

ダウンロードファイルを格納するための、作業用フォルダを作成してください（ここでは例として、Dドライブの先頭にsirというフォルダを作成）。富士通ホームページからダウンロードし解凍により作成されたフォルダのindex.html（D:\%sir%\sirtool\%x.y%\client\%Si-R (x.yはツール版数)）ファイルをクリックすることで、「Si-R 効率化運用クライアント」ページが表示されます。



Windows XP Service Pack 2でMicrosoft Internet Explorerを使用する場合、「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorerで制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください。」というメッセージがブラウザ画面上部に表示されることがあります。この場合、メッセージをクリックして「ブロックされているコンテンツを許可」を選択します。「セキュリティの警告」が表示されますが、[はい] ボタンをクリックしてください。一時的に許可されメッセージが出なくなります。

4. 画面左側の「設定シート選択メニュー」で設定する設定シート名をクリックします。

選択した「接続設定シート」画面が表示されます。

5. センタから送付された「設定シート」に従って、情報を設定します。

☛ 参照 [2.8.1 設定シートとSi-R効率化運用クライアント画面] (P.55)

6. [設定開始] ボタンをクリックします。

「ルータ自動設定」画面が表示され、「設定が正常に終了しました。」のメッセージが表示されます。

7. 導入時の接続構成が、運用時と異なる場合は、運用時の接続構成に接続し直します。

2.8.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面

以下に、接続ごとの「設定シート」と Si-R 効率化運用クライアントで表示される「設定ツール選択メニュー」のシート画面を示します。

拠点側でセンタ情報を設定する際に、必要な情報を整理、管理するためにご利用ください。

☛ 参照 マニュアル「Si-R 効率化運用ツール使用手引書」

DHCP 接続

● DHCP 接続設定シート

DHCP 接続設定シート	
拠点名	[]
接続形態	[]
機種名	[]
サーバのIPアドレス	[]
サーバのポート番号	[]
アクセスID	[]
アクセスパスワード	[]

● Si-R 効率化運用クライアント画面

DHCP接続設定シート

■装置設定

機種名

■導入サーバ設定

サーバのIPアドレス

サーバのポート番号

アクセスID

アクセスパスワード

設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

PPPoE 接続

● PPPoE 接続設定シート

PPPoE 接続設定シート	
拠点名	[]
接続形態	[]
機種名	[]
ユーザ認証ID	[]
ユーザ認証パスワード	[]
サーバのIPアドレス	[]
サーバのポート番号	[]
アクセスID	[]
アクセスパスワード	[]

● Si-R 効率化運用クライアント画面

PPPoE接続設定シート

■装置設定

機種名

■接続設定

ユーザ認証ID

ユーザ認証パスワード

■導入サーバ設定

サーバのIPアドレス

サーバのポート番号

アクセスID

アクセスパスワード

設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

広域LAN接続

● 広域LAN接続設定シート

広域LAN接続設定シート	
拠点名	[]
接続形態	[]
機種名	[]
グローバル側IPアドレス	[]
グローバル側ネットマスク	[]
デフォルトゲートウェイ	[]
サーバのIPアドレス	[]
サーバのポート番号	[]
アクセスID	[]
アクセスパスワード	[]

● Si-R効率化運用クライアント画面

広域LAN接続設定シート

■装置設定

機種名

■接続設定

グローバル側IPアドレス

グローバル側ネットマスク

デフォルトゲートウェイ

■導入サーバ設定

サーバのIPアドレス

サーバのポート番号

アクセスID

アクセスパスワード

設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

2.9 USBメモリを使う

本装置は、USBメモリを使用できます。

USBメモリは、本装置インタフェース面に取り付けます。



対応USBメモリは、
富士通ホームページ (<http://fenics.fujitsu.com/products/manual/usb/>) を参照してください。



設定データが破壊するおそれがありますので、アクセス中は抜かないでください。

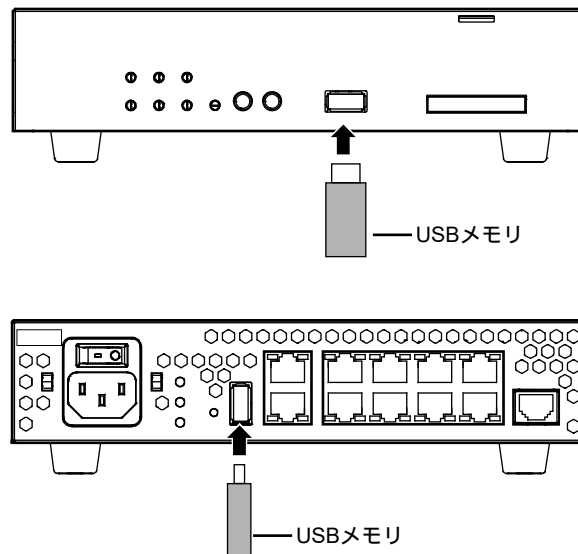
こんな事に気をつけて

USBメモリは電源を投入したまま、取り付け/取り外しが可能です。

2.9.1 USBメモリを取り付ける

USBメモリの取り付け手順について説明します。

1. USBメモリを本装置カードスロット面のUSB1ポート、またはインタフェース面のUSB2ポートに最後まで差し込みます。



2.9.2 USBメモリを交換する（取り外す）

USBメモリの交換（取り外し）手順についてUSB2ポートを使用した場合を例に説明します。

こんな事に気をつけて

usbctl コマンドをポートオプションなしで実行した場合は、USBメモリだけでなくUSBポートおよびExpressCardスロットに実装されているデータ通信モジュールも制御されますのでご注意ください。

1. telnetまたはコンソールからUSB2ポートを安全な取り外しが可能な状態にします。

```
# usbctl eject usb 2
```

2. USB2ポートが安全な取り外しが可能な状態になったことを確認します。

本装置のUSB2ランプが消灯したことを確認します。

3. 本装置からUSBメモリを取り外します。



USBメモリを取り外すだけの場合は、ここまでの手順で終わりです。

4. 交換するUSBメモリを本装置に取り付けます。
5. USB2ポートが使用可能な状態になったことを確認します。
本装置のUSB2ランプが緑色で点灯したことを確認します。

2.10 外部メディアスタート機能を設定する

ご購入時の状態では、PCレスでソフトウェアおよび構成定義をインストール可能とする外部メディアスタート機能が有効となっています。

☛ 参照 マニュアル「コマンドユーザズガイド」

本装置の設置後、以下の場合は外部メディアスタート機能が意図せずに動作しないよう設定を無効にしてください。

- 外部メディアスタート機能を使用しない場合
- 外部メディアを本装置に接続したまま運用する場合

こんな事に気をつけて

外部メディアスタート機能が有効かつ外部メディアが挿入された状態で、装置の電源が再投入された場合は、外部メディアスタート機能によるソフトウェアや構成定義ファイルのインストールが実行されたり、パスワード認証エラーなどによりランプ点灯状態がエラーを示す場合があります。

外部メディアスタート機能を無効にする手順について説明します。

1. 外部メディアスタート機能を無効にします。

telnetまたはコンソールから以下のコマンドを実行します。

```
# configure
# storage setup mode disable
# save
# commit
# exit
```


2.11 ランプをECOモードにする

本装置の以下のランプを消灯することができます。

- USB1
- USB2
- SLOT
- PPPoE
- VPN
- LINK/ACT/SPEED
- FDX

こんな事に気をつけて

本機能を使用すると、運用中ランプ動作の設定 (lamp mode コマンド) にかかわらず、本機能が有効となります。
本機能によるランプ状態は、show system funcswitch コマンドで確認できます。


 参照 「コマンドリファレンス-構成定義編-」の「lamp mode」
「コマンドリファレンス-運用管理編-」の「show system funcswitch」

ランプをECOモードで動作させるには

1. SELECT ボタンを1回押します。
PPPoE ランプが消灯し、VPN ランプが緑色で点滅することを確認します。
2. ENTER ボタンを押します。
対象となるランプが消灯します。

こんな事に気をつけて

手順1.で、次の手順が10秒以上行われない場合、元の状態に戻ります。
再度手順1.を行ってください。

 補足 同じ手順でECOモードを解除できます。

第3章 ソフトウェアの インストールと初期化



この章では、ソフトウェアをインストールする手順や設定内容の初期化について説明します。

なお、基本ソフトウェアのプレインストールモデルにはソフトウェアがインストールされているため、通常はインストールする必要はありません。

3.1	FTPサーバ機能によるソフトウェアの退避	63
3.2	ソフトウェアを更新（インストール）する	64
3.2.1	FTPによるソフトウェア更新	64
3.2.2	USBメモリからのソフトウェア更新	66
3.3	FTPサーバ機能によるデータ通信モジュールファイルの退避	69
3.4	データ通信モジュールファイルを更新（インストール）する	70
3.4.1	FTPによるデータ通信モジュールファイル更新	70
3.5	ソフトウェア更新に失敗したときには（バックアップファーム機能）	73
3.5.1	パソコン（FTPクライアント）を準備する	73
3.5.2	本装置を準備する	73
3.5.3	ソフトウェアを更新する	74
3.6	ご購入時の状態に戻すには	75
3.6.1	LANで接続する	75
3.6.2	コンソールポートに接続する	77
3.6.3	SELECTボタン／ENTERボタンを使用する	79

3.1 FTP サーバ機能によるソフトウェアの退避

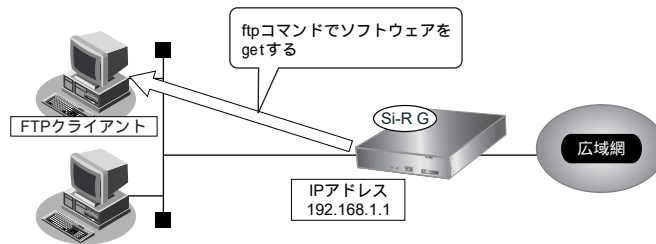
本装置には、リカバリメディアを同梱していません。

運用に先立って、以下の方法でご購入時のソフトウェアを退避してください。

退避したファイルは、本装置をご購入時の状態に戻す場合に必要となりますので、大切に保管してください。

本装置のFTPサーバ機能によるソフトウェアの退避

パソコン上のftpコマンドを使ってソフトウェアを退避する方法について説明します。



こんな事に気をつけて

メンテナンス作業時は、以下のことを必ず守ってください。

- 本装置の電源を切断しないでください。
- 本装置上でデータ通信を行っている場合、データ通信が遅延することがあります。
- コンソールによる設定作業を一切行っていない状態で作業してください。

● ftpコマンドの使用例

ソフトウェアをパソコン上のSIRGSOFT.ftpとして退避する場合の例を示します。

```

C:¥> cd ソフトウェアを退避するディレクトリ
C:¥tmp> ftp 192.168.1.1                : 本装置に接続する
Connected to 192.168.1.1
220 Si-R Gxxx Vxx.xx FTP server (config1) ready.: Gxxxは機種名、Vxx.xxはバージョンが表示されます
Name(192.168.1.1:root): ftp-admin      : ユーザ名を入力する
331 Password required for ftp-admin.
Password:                               : パスワードを入力する
230 User ftp-admin logged in.
ftp>bin                                  : バイナリモードにする
200 Type set to I.
ftp>get firmware SIRGSOFT.ftp           : ソフトウェアをSIRGSOFT.ftpに退避する
local: SIRGSOFT.ftp remote: firmware
200 Port command successful.
150 Opening BINARY mode data connection for 'firmware' (5440358 bytes).
226 Transfer complete.
5440358 bytes received in 0.56 seconds (9.33 MB/s)
ftp>bye                                  : 処理を終了する
221 Goodbye.
C:¥tmp>

```

☛ 参照 パスワードは、マニュアル「コマンドユーザーズガイド」を参照して設定したパスワードを指定してください。

3.2 ソフトウェアを更新（インストール）する

ここでは、以下の2つの更新方法について説明します。

- FTPによるソフトウェア更新
- USBメモリからのソフトウェア更新

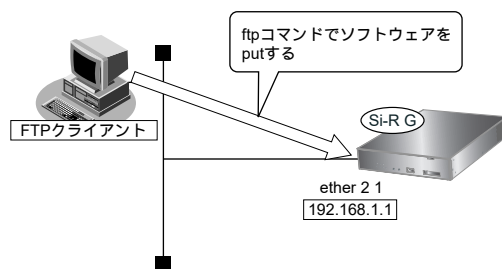
こんな事に気をつけて

- ソフトウェア更新時は、以下のことを必ず守ってください。
 - ソフトウェアの更新中は、本装置の電源の切断またはリセットを行わないでください。装置が起動しなくなります。
 - 本装置上でデータ通信を行っている場合、データ通信が遅延することがあります。
 - コンソールによる設定作業を一切行っていない状態で作業してください。
 - ソフトウェアを更新する前に、構成定義情報を退避しておいてください。
- ご購入時の状態では、外部メディアスタート機能は有効となっています。意図せず外部メディアスタート機能が動作する場合がありますので、以下の点にご注意ください。
 - ソフトウェア更新後、電源再投入を行う前に、必ず外部メディアを取り外してください。
 - 外部メディアスタート機能を使用しない場合は設定を無効にしてください。

☞ 参照 マニュアル「コマンドユーザズガイド」

3.2.1 FTPによるソフトウェア更新

FTPを使用してソフトウェアを更新する手順について説明します。



本装置とパソコンをLANで接続する

本装置とパソコン（FTPクライアント）をLANで接続します。パソコンには、本装置と同じネットワークのIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。

なお、LANケーブルの接続方法およびパソコンの準備については、[\[2.5 設定用パソコンを接続する\]](#) (P.40) を参照してください。



ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気を除電してください。除電については、[「ツイストペアケーブルの除電について」](#) (P.11) を参照してください。

ソフトウェアを転送する

ここでは、パソコンのEドライブ配下に作成したsirというフォルダにソフトウェアを格納し、Windows XPのコマンドプロンプトを使用してソフトウェアを更新する手順について説明します。

1. ソフトウェアのアップデートモジュールを入手します。



ソフトウェアのアップデートモジュールは、以下の富士通ホームページからダウンロードしてください。
URL:<https://fenics.fujitsu.com/products/download/sir/firm/>

2. ソフトウェアがあるディレクトリに移動します。

```
C:¥> e:  
E:¥> cd sir
```

3. ftp で本装置にログインします。

Windows XPから本装置にftpでログインします。ログインする際のログイン名は「ftp-admin」、パスワードは必要に応じて入力します。ご購入時、パスワードは設定されていません。この場合、パスワードの入力は必要ありません。

```
E:¥sir>ftp 192.168.1.1 (本装置のIPアドレス)  
Connected to 192.168.1.1  
220 Si-R G200 V02.00 FTP server (config1) ready.  
User (192.168.1.1:(none)): ftp-admin  
331 Password required for ftp-admin.  
Password:  
230 User ftp-admin logged in.  
ftp>
```



- 本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスク「255.255.255.0」です。
- パスワードは、以下で設定した管理者 (admin) 用のパスワードを指定してください。ご購入時は、パスワードは設定されていません。
マニュアル「コマンドユーザーズガイド」

4. ソフトウェアを本装置に転送します。

ソフトウェアを本装置にBINARYモードで転送します。

“put” コマンドには、「put パソコン側のファイル名 (SIRG200SOFT.ftp) 本装置側のファイル名 (firmware)」を入力します。

```
ftp>binary  
200 Type set to I.  
ftp>put SIRG200SOFT.ftp firmware  
local: SIRG200SOFT.ftp remote: firmware  
200 PORT command successful.  
150 Opening BINARY mode data connection for 'firmware'.  
226- Transfer complete.  
update : Transfer file check now!  
update : Transfer file check ok.  
.  
.
```

5. ソフトウェアが正しく転送できたことを確認します。

“Write complete”のメッセージが表示されれば、正常終了となります。

```
.  
.  
226 Write complete.  
ftp>
```

6. ftp コマンドを終了します。

```
ftp> quit
221 Goodbye.
E:¥sir>
```

7. 本装置の電源を切断後、電源を再投入します。

電源が再投入され、ソフトウェアが有効になります。

8. ソフトウェアが正しく更新されていることを確認します。

本装置の再起動後に、telnetまたはコンソールから本装置にログインします。“show system information” コマンドを実行して、本装置の製品名とソフトウェアのバージョンが正しいことを確認します。

```
# show system information
      .
      .
System   : Si-R G200 (製品名)
      .
      .
Firm Ver. : V02.00 (ソフトウェアのバージョン)
```

3.2.2 USBメモリからのソフトウェア更新

USBメモリに保存したソフトウェアを、telnetまたはコンソールを使用して本装置に転送する手順についてUSB2ポートを使用した場合を例に説明します。

PCレスでソフトウェアを更新する

本装置にPCを使用しないでソフトウェアを更新することができます。

☛ 参照 詳細は、マニュアル「コマンドユーザズガイド」を参照してください。

telnetまたはコンソールからソフトウェアを更新する

USBメモリに保存したソフトウェアを、telnetまたはコンソールを使用して本装置に転送する手順について説明します。

こんな事に気をつけて

usbctl コマンドをポートオプションなしで実行した場合は、USBメモリだけでなくUSBポートおよびExpressCardスロットに実装されているデータ通信モジュールも制御されますのでご注意ください。

1. USBメモリを本装置のUSB2ポートに差し込みます。
2. 管理者クラス (admin) でログインします。
3. USB2ポートが使用可能な状態になったこと確認します。
本装置のUSB2ランプが緑色で点灯したことを確認します。

4. USBメモリから本装置にソフトウェアを転送します。

<filename>には、USBメモリに保存されているソフトウェアのファイル名を入力します。

```
# copy /um0/<filename> firmware
```

5. プロンプトが表示されるのを確認します。

6. USB2ポートを安全な取り外しが可能な状態にします。

```
# usbctl eject usb 2
```

7. USB2ポートが安全な取り外しが可能な状態になったことを確認します。

本装置のUSB2ランプが消灯したことを確認します。

8. 本装置からUSBメモリを取り外します。

9. 本装置の電源を切断後、電源を再投入します。

電源が再投入され、ソフトウェアが有効になります。

10. ソフトウェアが正しく更新されていることを確認します。

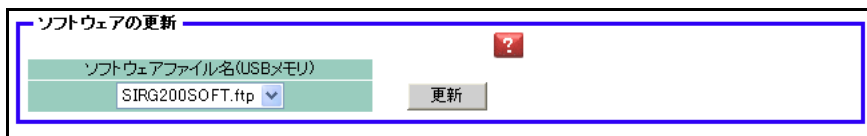
本装置の再起動後に、telnetまたはコンソールから本装置にログインします。“show system information”コマンドを実行して、本装置の製品名およびソフトウェアのバージョンが正しいことを確認します。

```
# show system information
      .
      .
System   : Si-R G200 (製品名)
      .
      .
Firm Ver. : V02.00 (ソフトウェアのバージョン)
```

WWWブラウザからソフトウェアを更新する

USBメモリに保存したソフトウェアを、WWWブラウザを使用して本装置に転送する手順について説明します。

1. 本装置とパソコンをLANで接続します。
パソコンには、本装置と同じネットワークのIPアドレスを設定してください。
ここでは、本装置のIPアドレスを「192.168.1.1」、サブネットマスクを「255.255.255.0」とします。
2. USBメモリを本装置インタフェース面のUSBポートに差し込みます。
3. WWWブラウザを起動します。
4. 本装置のURL「http://192.168.1.1/」を指定します。
ログイン認証画面が表示されます。
5. 管理者クラス（admin）でログインします。
本装置のトップページが表示されます。
6. トップページ画面の上部の「保守」ボタンをクリックします。
保守メニューが表示されます。
7. 保守メニューで「USBメモリ」をクリックします。
「USBメモリ」画面が表示されます。



8. 「ソフトウェアの更新」で、ソフトウェアファイル名を指定して「更新」ボタンをクリックします。
ソフトウェアが更新されます。

3.3 FTPサーバ機能によるデータ通信モジュールファイルの退避

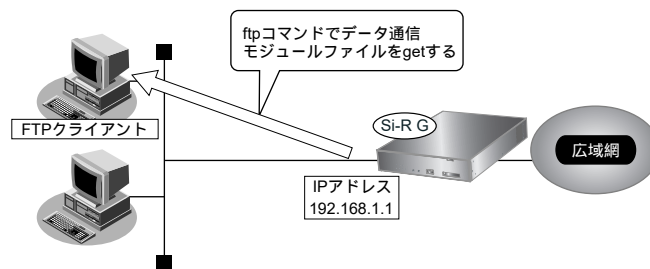
本装置には、リカバリメディアを同梱していません。

運用に先立って、以下の方法でご購入時のデータ通信モジュールファイルを退避してください。

退避したファイルは、本装置をご購入時の状態に戻す場合に必要となりますので、大切に保管してください。

本装置のFTPサーバ機能でデータ通信モジュールファイルを退避する

パソコン上のftpコマンドを使ってデータ通信モジュールファイルを退避する方法について説明します。



こんな事に気をつけて

メンテナンス作業時は、以下のことを必ず守ってください。

- 本装置の電源を切断しないでください。
- 本装置上でデータ通信を行っている場合、データ通信が遅延することがあります。
- コンソールによる設定作業を一切行っていない状態で作業してください。

● ftpコマンドの使用例

データ通信モジュールファイルをパソコン上のmodeminf.ftpとして退避する場合の例を示します。

```

C:¥> cd データ通信モジュールファイルを退避するディレクトリ
C:¥tmp> ftp 192.168.1.1                : 本装置に接続する
Connected to 192.168.1.1
220 Si-R Gxxx Vxx.xx FTP server (config1) ready.: Gxxxは機種名、Vxx.xxはバージョンが表示されます
Name(192.168.1.1:root): ftp-admin      : ユーザ名を入力する
331 Password required for ftp-admin.
Password:                               : パスワードを入力する
230 User ftp-admin logged in.
ftp>bin                                  : バイナリモードにする
200 Type set to I.
ftp>get modeminf modeminf.ftp          : データ通信モジュールファイルをmodeminf.ftpに退避する
local: modeminf.ftp remote: modeminf
200 Port command successful.
150 Opening BINARY mode data connection for 'modeminf' (3383 bytes).
226 Transfer complete.
3383 bytes received in 0.0032 seconds (1e+03 Kbytes/s)
ftp>bye                                  : 処理を終了する
221 Goodbye.
C:¥tmp>

```

☞ 参照 パスワードは、マニュアル「コマンドユーザズガイド」を参照して設定したパスワードを指定してください。

3.4 データ通信モジュールファイルを更新（インストール）する

データ通信モジュールファイルを更新する場合、Web で公開されているデータ通信モジュールファイルを本装置に転送します。

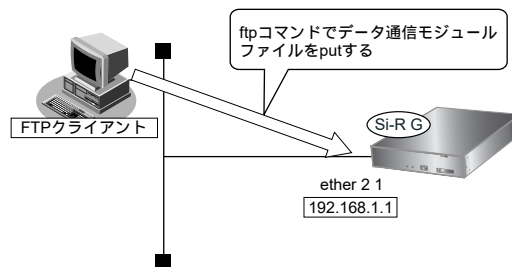
ここではFTPによるデータ通信モジュールファイルの更新方法について説明します。

こんな事に気をつけて

- データ通信モジュールファイルの更新時は、以下のことを必ず守ってください。
 - データ通信モジュールファイルの更新中は、本装置の電源の切断またはリセットを行わないでください。装置が起動しなくなります。
 - 本装置上でデータ通信を行っている場合、データ通信が遅延することがあります。
 - コンソールによる設定作業を一切行っていない状態で作業してください。

3.4.1 FTP によるデータ通信モジュールファイル更新

FTPを使用してデータ通信モジュールファイルを更新する手順について説明します。



本装置とパソコンをLANで接続する

本装置とパソコン（FTPクライアント）をLANで接続します。パソコンには、本装置と同じネットワークのIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。

なお、LANケーブルの接続方法およびパソコンの準備については、[\[2.5 設定用パソコンを接続する\] \(P.40\)](#) を参照してください。



ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気を除電してください。除電については、[\[ツイストペアケーブルの除電について\] \(P.11\)](#) を参照してください。

データ通信モジュールファイルを転送する

ここではデータ通信モジュールファイルが保存されているディレクトリを tmp とし、Windows XP のコマンドプロンプトを使用してデータ通信モジュールファイルを更新する手順について説明します。

1. データ通信モジュールファイルを入手します。



データ通信モジュールファイルは、以下の富士通ホームページからダウンロードしてください。

URL: <https://fenics.fujitsu.com/products/download/sir/firm/>

2. データ通信モジュールファイルがあるディレクトリに移動します。

```
C:¥>cd ¥tmp  
C:¥tmp>
```

3. ftp で本装置にログインします。

Windows XP から本装置に ftp でログインします。ログインする際のログイン名は「ftp-admin」、パスワードは必要に応じて入力します。ご購入時、パスワードは設定されていません。この場合、パスワードの入力は必要ありません。

```
C:¥tmp>ftp 192.168.1.1 (本装置のIPアドレス)  
Connected to 192.168.1.1  
220 Si-R G200 V02.00 FTP server (config1) ready.  
User (192.168.1.1:(none)): ftp-admin  
331 Password required for ftp-admin.  
Password:  
230 User ftp-admin logged in.  
ftp>
```



本装置のご購入時の IP アドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスク「255.255.255.0」です。

パスワードは、以下で設定した管理者 (admin) 用のパスワードを指定してください。ご購入時は、パスワードは設定されていません。
マニュアル「コマンドユーザーズガイド」

4. データ通信モジュールファイルを本装置に転送します。

データ通信モジュールファイルを本装置に BINARY モードで転送します。

“put” コマンドには、「put パソコン側のファイル名 (modeminf.ftp) 本装置側のファイル名 (modeminf)」を入力します。

```
ftp>binary  
200 Type set to I.  
ftp>put modeminf.ftp modeminf  
local: modeminf.ftp remote: modeminf  
200 PORT command successful.  
150 Opening BINARY mode data connection for 'modeminf'.  
226- Transfer complete.  
update : Transfer file check now!  
update : Transfer file check ok.  
.  
.
```

5. データ通信モジュールファイルが正しく転送できたことを確認します。

“Write complete”のメッセージが表示されれば、正常終了となります。

```
      .  
      .  
226 Write complete.  
ftp>
```

6. ftp コマンドを終了します。

```
ftp> quit  
221 Goodbye.  
C:¥tmp>
```

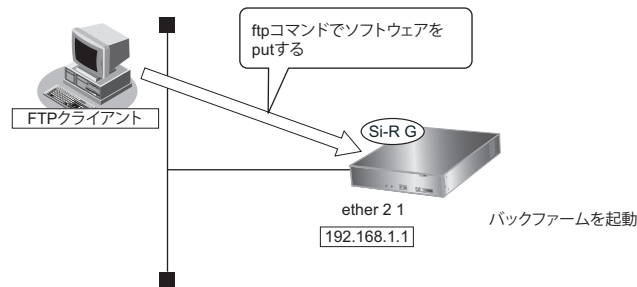
7. 本装置の電源を切断後、電源を再投入します。

電源が再投入され、データ通信モジュールファイルが有効になります。

3.5 ソフトウェア更新に失敗したときには (バックアップファーム機能)

停電などでソフトウェアの更新に失敗し、本装置を起動できなくなった場合、バックアップ用のファームを起動し、ネットワーク上のFTPクライアントからソフトウェアを転送することにより、正常な状態に復旧することができます。

補足 リセットスイッチを押しながら電源を投入するとバックアップファームが起動されます。



3.5.1 パソコン (FTPクライアント) を準備する

1. 更新するためのソフトウェアをFTPクライアントに保存します。

3.5.2 本装置を準備する

こんな事に気をつけて

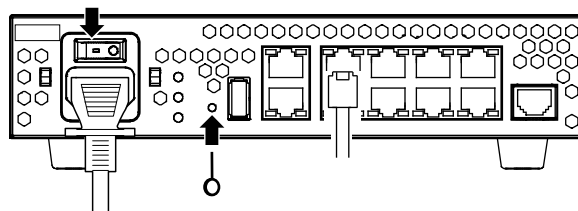
バックアップファームが起動した場合、本装置のetherグループ2ポート1のIPアドレスは192.168.1.1になっています。運用中のLANで、このアドレスに問題がある場合は、FTPクライアントだけを接続してください。

1. 本装置の電源が切れていることを確認します。
2. 本装置とパソコン (FTPクライアント) をLAN接続します。

本装置とパソコンをHUBを介さず、直接、10/100/1000BASE-Tポートにケーブルを接続します。

- 補足**
- ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気を除電してください。除電については、「ツイストペアケーブルの除電について」(P.11)を参照してください。
 - 本装置は、AutoMDI/MDI-X機能をサポートしているため、パソコンとHUBを意識しないで、10/100/1000BASE-Tポートにケーブルを接続することができます。

3. 先の細いものでリセットスイッチを押しながら電源を投入します。



4. 約5秒後にリセットスイッチをはなします。

バックアップファームが起動します。

こんな事に気をつけて

電源投入後、10秒以内にリセットスイッチをはなさない場合、リセットスイッチの故障とみなされます。
そのため、約5秒後に必ずリセットスイッチをはなしてください。



- バックアップファームの起動には約1分かかります。
- バックアップファームが動作しているときは、CHECKランプが緑色で点灯します。

3.5.3 ソフトウェアを更新する

1. パソコン（FTPクライアント）から本装置にソフトウェアを転送します。

☛ 参照 [3.2ソフトウェアを更新（インストール）する] (P.64)

こんな事に気をつけて

- ソフトウェアの転送（put）中は、本装置の電源を切断しないでください。
- 転送中に電源を切断すると、本装置が使用できなくなる場合があります。

2. ソフトウェアの更新が正常に行われたことをランプで確認し、電源を切断します。



ソフトウェア更新中はCHECKランプが緑色で点滅し、更新が完了後、CHECKランプの緑色点滅は終了します。

3. 電源を投入すると、更新したソフトウェアで本装置が起動します。

3.6 ご購入時の状態に戻すには

本装置を誤って設定した場合やトラブルが発生した場合、コンソールケーブルやLANケーブル、またはSELECTボタン／ENTERボタンを使用することで、本装置をご購入時の状態に戻すことができます。また、本装置を移設する場合は、ご購入時の状態に戻してから設定してください。

こんな事に気をつけて

ご購入時の状態に戻すと、それまでの設定内容がすべて失われます。構成定義情報の退避、または設定内容をメモしておきましょう。

用意するもの（[3.6.3 SELECTボタン／ENTERボタンを使用する]（P.79）の場合は不要）

- コンソールケーブルまたはLANケーブル



本製品には、コンソールケーブルは同梱されていません。

[3.6.2 コンソールポートに接続する]（P.77）の方法でご購入時の状態に戻す場合は、コンソールケーブルを用意してください。

ケーブルについては、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable3/>

☞ 参照 仕様一覧 [1.2 コンソールポート仕様]（P.11）

- ターミナルソフトウェア（HyperTerminal など）

3.6.1 LANで接続する

本装置を準備する

こんな事に気をつけて

バックアップファームが起動した場合、本装置のetherグループ2ポート1のIPアドレスは192.168.1.1になっています。運用中のLANで、このアドレスに問題がある場合は、パソコンだけを接続してください。

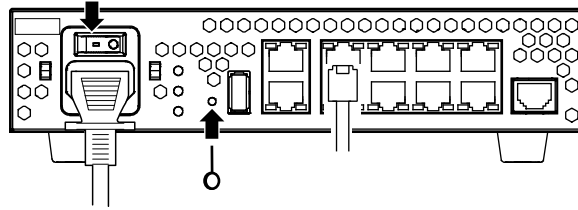
1. 本装置の電源が切れていることを確認します。
2. 本装置とパソコンをLAN接続します。

本装置とパソコンをHUBを介さず、直接、10/100/1000BASE-Tポートにケーブルを接続します。



- ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気を除電してください。除電については、「ツイストペアケーブルの除電について」（P.11）を参照してください。
- LANケーブルの接続方法およびパソコンの準備については、「2.5 設定用パソコンを接続する」（P.40）を参照してください。
- 本装置は、AutoMDI/MDI-X機能をサポートしているため、パソコンとHUBを意識しないで、10/100/1000BASE-Tポートにケーブルを接続することができます。

3. 先の細いものでリセットスイッチを押しながら電源を投入します。



4. 約5秒後にリセットスイッチをはなします。

バックアップファームが起動します。

こんな事に気をつけて

電源投入後、10秒以内にリセットスイッチをはなさない場合、リセットスイッチの故障とみなされます。そのため、約5秒後に必ずリセットスイッチをはなしてください。



- バックアップファームの起動には約1分かかります。
- バックアップファームが動作しているときは、CHECKランプが緑色で点灯します。

本装置をご購入時の状態に戻す

1. telnet でログインします。

パソコンには、本装置と同じネットワークのIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。

2. [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
3. 画面に「backup#」と表示されたことを確認します。
4. reset clear と入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

本装置の構成定義情報が初期化されます。

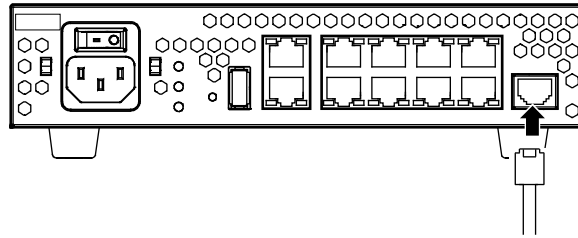
```
backup# reset clear (下線部入力)
```

5. CHECKランプが緑色で点灯状態になったことを確認したあとに電源を再投入します。
本装置をご購入時の状態で起動します。

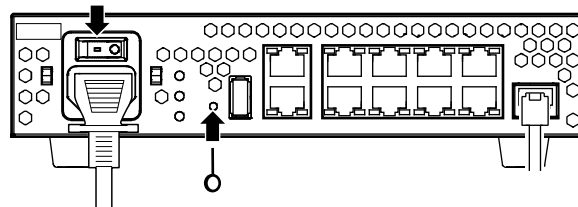
3.6.2 コンソールポートに接続する

本装置を準備する

1. 本装置の電源が切れていることを確認します。
2. パソコンとコンソールケーブルを接続します。
3. 本装置のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ45プラグを差し込みます。



4. 先の細いものでリセットスイッチを押しながら電源を投入します。



5. 約5秒後にリセットスイッチをはなします。
バックアップファームが起動します。

こんな事に気をつけて

電源投入後、10秒以内にリセットスイッチをはなさない場合、リセットスイッチの故障とみなされます。
そのため、約5秒後に必ずリセットスイッチをはなしてください。



- バックアップファームの起動には約1分かかります。
- バックアップファームが動作しているときは、CHECKランプが緑色で点灯します。

本装置をご購入時の状態に戻す

1. パソコンでターミナルソフトウェアを起動します。
2. 設定条件を以下のように設定します。

スタート Bit	データ Bit	パリティ Bit	ストップ Bit	同期方式	通信速度	フロー制御
1	8	なし	1	非同期	9600	なし



設定条件の設定方法については、ターミナルソフトウェアのマニュアルを参照してください。

3. [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
4. 画面に「>」と表示されたことを確認します。
5. logonと入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
6. 画面に「backup#」と表示されたことを確認します。
7. reset clearと入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

本装置の構成定義情報が初期化されます。

```
>logon
backup# reset clear (下線部入力)
>
```

8. CHECK ランプが緑色で点灯状態になったことを確認したあとに電源を再投入します。
本装置をご購入時の状態で起動します。

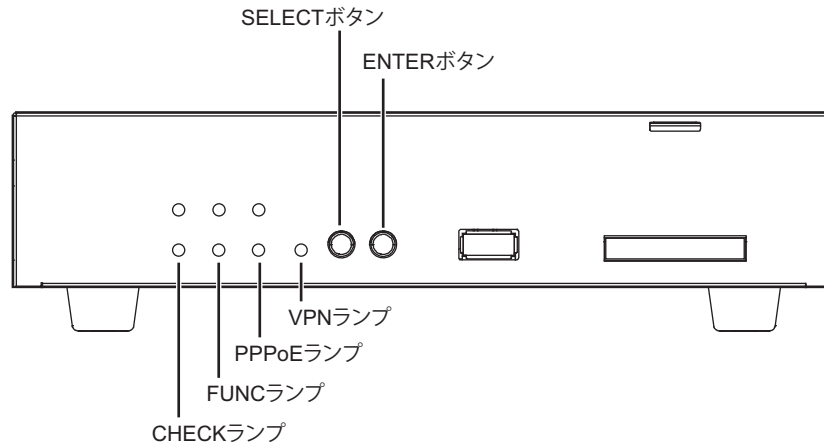
3.6.3 SELECT ボタン / ENTER ボタンを使用する

⚠注意

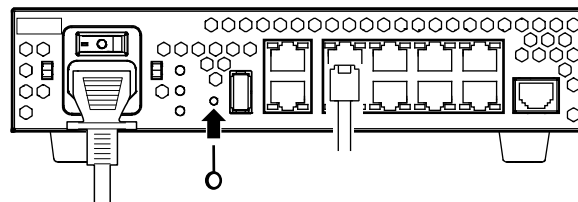
LAN ケーブルや通信モジュールを取り外してから本操作を実行してください。

ソフトウェア更新中などに本操作を行った場合、本装置を起動できなくなったり、正常に実行されない場合があります。

本装置をご購入時の状態に戻す



1. 本装置の電源を投入し、装置が起動したことを確認します。
本装置前面のPOWER ランプが緑色で点滅後、点灯します。
2. SELECT ボタンを1回押します。
PPPoE ランプが消灯し、VPN ランプが緑色で点滅したことを確認します。
3. SELECT ボタンをさらにもう1回押します。
VPN ランプが消灯し、PPPoE ランプが緑色で点滅したことを確認します。
4. ENTER ボタンを押します。
PPPoE ランプが緑色 / 橙色で交互に点滅したことを確認します。
5. 先の細いものでリセットスイッチを押します。
本装置の構成定義情報が初期化され、本装置をご購入時の状態で起動します。



こんな事に気をつけて

手順2. ~ 4. で、次の手順が10秒以上行われない場合、元の状態に戻ります。
再度手順2. から行ってください。

索引

記号

10/100/1000BASE-T ポート 19

C

CHECK ランプ 17, 20

D

DHCP 接続設定シート 55

E

ENTER ボタン 17

ExpressCard 34

ExpressCard スロット 17

ExpressCard スロットキャップ 16

F

FDX ランプ 20

FTP クライアント 73

FUNC ランプ 17

H

HyperTerminal 75

I

ipconfig 46

L

LAN カード 40

LAN ケーブル 40, 41, 75

LAN 接続 40

LINK/ACT/SPEED ランプ 20

M

MAC /ソフトウェアラベル 24

MAC アドレス 46

P

POWER ランプ 17, 20

PPPoE 接続設定シート 56

PPPoE ランプ 17

R

RS232C ケーブル 47, 48

S

SELECT ボタン 17

Si-R 効率化運用クライアント画面 55

SLOT ランプ 17

ssh 47

T

TCP/IP ソフトウェア 40

telnet 47

U

USB1 ポート 17

USB1 ランプ 17

USB2 ポート 19

USB2 ランプ 20

USB 通信モジュール 38

USB メモリ 58

V

VPN ランプ 18

W

Windows 2000 42

Windows Vista 45

Windows XP 44

い

インストール 64, 70

か

型名/号機ラベル 19

け

ケーブル抜け防止金具 16

警告表示 23

こ

広域 LAN 接続設定シート 57

ご使用になる前に 16

コンソールケーブル 75

コンソールポート	19, 47
梱包内容	16
さ	
サービスエリア	29
し	
湿温度条件	27
せ	
製造ラベル	24
製品保証書	16
セキュリティスロット	22
設置環境	27
設置条件	27
設置スペース	30
設定シート	53, 55
設定用パソコン	49
そ	
ソフトウェア	40, 47
ソフトウェア更新	64, 74
ソフトウェア更新 (FTP)	64, 70
ソフトウェア更新 (USB メモリ)	66
ソフトウェア退避 (FTP)	63
た	
ターミナルソフトウェア	49, 75
台足	24
台足の取り外し	31
卓上設置	30
つ	
通信ソフトウェア	47
て	
データ通信モジュールファイルの更新	70
電源ケーブル	16, 50
電源コネクタ	19
電源条件	27
電源スイッチ	19
電源の切断	51
電源の投入	51
と	
盗難防止機構	36

は

ハードウェア	40, 47
バックアップファーム機能	73

へ

平行 2 極接地用口出線付変換プラグ	16
--------------------------	----

ほ

保守スペース	29
本装置 インタフェース面	19
本装置 カードスロット面	17
本装置 上面	23
本装置 側面	22
本装置 底面	24

ま

マニュアル構成	7
---------------	---

ら

ラック搭載	31, 32
-------------	--------

り

リセットスイッチ	19, 77
----------------	--------

れ

冷却ファン	22
-------------	----

Si-R G200 ご利用にあたって

P3NK-4312-07Z0

発行日 2023年5月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
- 本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、弊社はその責を負いません。